（２）鳥類調査

ア 年間出現種

令和5年度の確認種の一覧を表7.2-1に、確認種の地点別延べ個体数を表7.2-2に示した。平成29年度から、東なぎさ沖合を別途カウントするようになり、本報告書の表7.2-1と表7.2-7、図7.2-3、図7.2-21、図7.2-24には掲載したが、特記した場合を除き、他の図表や集計には含めていない。

令和5年度の調査では3地点で10目15科62種[1]、32,584羽の鳥類を確認した。メリケンキアシシギ、シロカモメ、範囲外であるがトウゾクカモメが本調査の初記録となった。種数が一番多かった分類群はチドリ目（シギ・チドリ類、カモメ類、アジサシ類[2]）で26種、次いでカモ目が11種、ペリカン目（サギ類、トキ類）が7種、タカ目が5種、その他の目は1～4種であった。

延べ個体数が最も多かった種はカワウが17,294羽（約53%）、次いでスズガモ4,876羽（約15%）、カンムリカイツブリ4,412羽（約14%）の順であった。地点別に見ると、お台場海浜公園で29種、森ヶ崎の鼻で35種、葛西人工渚で49種が確認された。3地点全てで確認された種は、ヒドリガモ、カルガモ、カンムリカイツブリ、カワウ、ウミウ、アオサギ、ダイサギ、コサギ、チュウシャクシギ、キアシシギ、イソシギ、キョウジョシギ、ユリカモメ、ウミネコ、セグロカモメ、ミサゴ、トビ、ハクセキレイ、タヒバリの19種であった。地点別の合計個体数は、葛西人工渚が18,847羽と最も多く、全体の約58%を占めた。

確認種のうち、調査地及び周辺で繁殖が確認された鳥類は、カルガモ、カワウ、コチドリ、シロチドリ、ウミネコ、コアジサシの6種である。お台場海浜公園では第六台場と鳥の島でカワウの繁殖が確認された。森ヶ崎の鼻では、隣接する森ヶ崎水再生センターの屋上でコチドリとシロチドリ、コアジサシの繁殖情報が得られた[3]。葛西人工渚では隣接する葛西臨海公園の鳥類園でカルガモが繁殖[4]したとの情報が得られたほか、砂町運河でウミネコの繁殖が確認された。

重要種[5]は45種で、種の保存法に該当する種が4種、環境省レッドリストに該当する種が15種、東京都レッドリストに該当する種が43種含まれる。

月別出現状況を表7.2-3に示した。確認種は冬季に多く、最も多く確認されたのは2月の40種、次いで1月の33種であった。1月及び2月はカモ類、5月はシギ・チドリ類の種数が多かった。全ての月で確認された鳥類は、カルガモ、カワウ、アオサギ、コサギ、シロチドリ、トビ、ハクセキレイの7種であった。個体数は2月が最も多く、11,001羽が記録された。

[1] 過去の調査で猛禽類は魚食性のミサゴ・トビのみを対象としたが、平成30年度からタカ目とハヤブサ目の全種を対象に変更した。

[2] チドリ目の確認種は必要に応じ、次のグループにまとめて扱った。
シギ・チドリ類：チドリ科、ミヤコドリ科、セイタカシギ科、シギ科に含まれる種
カモメ類：カモメ科のうち、カモメ属に含まれる種
アジサシ類：カモメ科のうち、アジサシ属、クロハラアジサシ属に含まれる種

[3] 「2023年、11年ぶりコアジサシ巣立ち0羽」https://littletern.hatenablog.com/entry/2023/08/13/151438

[4] 「ホトトギスが鳴いていました 先週末の鳥類園（20223.5.20～21）」https://choruien2.exblog.jp/30329089/

[5] 重要種は「文化財保護法」、「種の保存法」、「環境省レッドリスト2020」、「東京都レッドデータブック2023－東京都の保護上重要な野生生物種（本土部）解説版－」に記載されている種とした。

表7.2 -1　鳥類確認種リスト

No.	目名	科名	種名	お台場海浜公園	森ヶ崎の鼻	葛西人工渚（東なぎさ）		渡り	重要種 選定基準			
						範囲内	沖合		文化財保護法	種の保存法	環境省RL 2020鳥類	東京都RDB 2023(区)
1	カモ	カモ	オカヨシガモ		●			冬鳥				
2			ヒドリガモ	●	●	●		冬鳥				
3			マガモ		●	●		冬鳥				
4			カルガモ	●	●	○		留鳥				
5			ハシビロガモ		●			冬鳥				
6			オナガガモ		●			冬鳥				
7			コガモ		●	●		冬鳥				
8			ホシハジロ	●	●			冬鳥				VU
9			スズガモ	●		●	●	冬鳥				留
10			クロガモ			●		冬鳥				DD
11			ホオジロガモ				●	冬鳥				VU
12			ウミアイサ	●		●	●	冬鳥				DD
13	カイツブリ	カイツブリ	カイツブリ	●				留鳥				NT
14			アカエリカイツブリ			●		冬鳥				NT
15			カンムリカイツブリ	●	●	●	●	冬鳥				留
16			ハジロカイツブリ	●		●	●	冬鳥				NT
17	カツオドリ	ウ	カワウ	◎	●	●	●	留鳥				
18			ウミウ	●	●	●		冬鳥				
19	ペリカン	サギ	ゴイサギ	●				留鳥				VU
20			ササゴイ		●			夏鳥				CR
21			アオサギ	●	●	●		留鳥				
22			ダイサギ	●	●	●		留鳥				NT
23			チュウサギ		●			夏鳥			NT	NT
24			コサギ	●	●	●		留鳥				VU
25		トキ	クロツラヘラサギ			●		冬鳥		国内	EN	CR
26	ツル	クイナ	クイナ			●		冬鳥				DD
27			ヒクイナ			●		留鳥			NT	CR
28			オオバン	●	●			冬鳥				CR
29	チドリ	チドリ	ダイゼン			●		旅鳥・冬鳥				VU
30			コチドリ		○	●		夏鳥				CR
31			シロチドリ		○	●		留鳥			VU	CR
32		ミヤコドリ	ミヤコドリ			●		冬鳥				VU
33		シギ	タシギ			●		冬鳥				VU
34			オオソリハシシギ			●		旅鳥			VU	EN
35			チュウシャクシギ	●	●	●		旅鳥				VU
36			ダイシャクシギ			●		旅鳥・冬鳥				CR
37			ホウロクシギ			●		旅鳥		国際	VU	CR
38			アオアシシギ			●		旅鳥				NT
39			キアシシギ	●	●	●		旅鳥				VU
40			メリケンキアシシギ	●				旅鳥				
41			ソリハシシギ			●		旅鳥				VU
42			イソシギ	●	●	●		留鳥				VU
43			キョウジョシギ	●	●	●		旅鳥				VU
44			ミユビシギ			●		冬鳥				EN
45			トウネン			●		旅鳥				VU
46			ハマシギ	●		●		旅鳥・冬鳥			NT	VU
47		カモメ	ユリカモメ	●	●	●		冬鳥				
48			ズグロカモメ			●		冬鳥			VU	
49			ウミネコ	●	●	○	●	留鳥				留
50			カモメ			●		冬鳥				
51			シロカモメ		●			冬鳥				
52			セグロカモメ	●	●	●		冬鳥				
53			オオセグロカモメ		●	●	●	冬鳥(越夏)			NT	
54			コアジサシ		○	●		夏鳥			VU	EN
55		トウゾクカモメ	トウゾクカモメ				●	旅鳥				
56	タカ	ミサゴ	ミサゴ	●	●	●	●	冬鳥			NT	EN
57		タカ	トビ	●	●	●		留鳥				NT
58			チュウヒ			●		冬鳥		国内	EN	EN
59			ハイタカ	●				冬鳥			NT	EN
60			オオタカ		●			留鳥			NT	EN
61	ブッポウソウ	カワセミ	カワセミ			●		留鳥				VU
62	ハヤブサ	ハヤブサ	ハヤブサ		●	●	●	冬鳥		国内	VU	EN
63	スズメ	セキレイ	ハクセキレイ	●	●	●		留鳥				
64			タヒバリ	●	●	●		冬鳥				
計10目16科64種				29種	35種	49種	11種		0種	4種	15種	44種

種の分類・配列は日本鳥学会(2012)「日本鳥類目録　改訂第7版」に従った。

●：調査で確認された種　　◎調査地で繁殖が確認された種　　○調査地近隣で繁殖が確認された種

渡り区分は桑原ほか(2000)「東京湾の鳥類-多摩川・三番瀬・小櫃川の鳥たち-」を参考に現地の確認状況を考慮した。

重要種選定基準　文化財保護法：

種の保存法：　国際：国際希少野生動植物種　国内：国内希少野生動植物種

環境省RL：環境省自然環境局野生生物課（ 2020)「環境省第4次レッドリスト」のカテゴリー

EN：絶滅危惧ⅠB類、VU：絶滅危惧Ⅱ類、NT：準絶滅危惧

東京都RDB2023(区)：東京都環境局自然環境部(2023)「東京都レッドデータブック2023-東京都の保護上重要な野生生物種(本土部)解説版-」区部のカテゴリー

CR：絶滅危惧IA類、EN：絶滅危惧ⅠB類、VU：絶滅危惧Ⅱ類、NT：準絶滅危惧、留：留意種、DD：情報不足

表7.2-2　鳥類の地点別延べ個体数

No.	目名	科名	種名	お台場海浜公園		森ヶ崎の鼻		葛西人工渚（東なぎさ）		合計	
				個体数	優占度	個体数	優占度	個体数	優占度	個体数	優占度
1	カモ	カモ	オカヨシガモ			24	0.74%			24	0.07%
2			ヒドリガモ	3	0.03%	19	0.59%	1	0.01%	23	0.07%
3			マガモ			4	0.12%	7	0.04%	11	0.03%
4			カルガモ	18	0.17%	53	1.64%	8	0.04%	79	0.24%
5			ハシビロガモ			34	1.05%			34	0.10%
6			オナガガモ			16	0.50%			16	0.05%
7			コガモ			215	6.65%	11	0.06%	226	0.69%
8			ホシハジロ	1	0.01%	1	0.03%			2	0.01%
9			スズガモ	995	9.47%			3,881	20.59%	4,876	14.96%
10			クロガモ					1	0.01%	1	0.00%
11			ウミアイサ	8	0.08%			1	0.01%	9	0.03%
12	カイツブリ	カイツブリ	カイツブリ	2	0.02%					2	0.01%
13			アカエリカイツブリ					1	0.01%	1	0.00%
14			カンムリカイツブリ	14	0.13%	2	0.06%	4,396	23.32%	4,412	13.54%
15			ハジロカイツブリ	8	0.08%			7	0.04%	15	0.05%
16	カツオドリ	ウ	カワウ	8,853	84.27%	2,090	64.67%	6,351	33.70%	17,294	53.08%
17			ウミウ	1	0.01%	2	0.06%	9	0.05%	12	0.04%
18	ペリカン	サギ	ゴイサギ	3	0.03%					3	0.01%
19			ササゴイ			1	0.03%			1	0.00%
20			アオサギ	149	1.42%	108	3.34%	66	0.35%	323	0.99%
21			ダイサギ	23	0.22%	65	2.01%	87	0.46%	175	0.54%
22			チュウサギ			2	0.06%			2	0.01%
23			コサギ	32	0.30%	46	1.42%	61	0.32%	139	0.43%
24		トキ	クロツラヘラサギ					10	0.05%	10	0.03%
25	ツル	クイナ	クイナ					1	0.01%	1	0.00%
26			ヒクイナ					2	0.01%	2	0.01%
27			オオバン	49	0.47%	54	1.67%			103	0.32%
28	チドリ	チドリ	ダイゼン					2	0.01%	2	0.01%
29			コチドリ			4	0.12%	1	0.01%	5	0.02%
30			シロチドリ			3	0.09%	87	0.46%	90	0.28%
31		ミヤコドリ	ミヤコドリ					32	0.17%	32	0.10%
32		シギ	タシギ					3	0.02%	3	0.01%
33			オオソリハシシギ					3	0.02%	3	0.01%
34			チュウシャクシギ	3	0.03%	2	0.06%	18	0.10%	23	0.07%
35			ダイシャクシギ					2	0.01%	2	0.01%
36			ホウロクシギ					1	0.01%	1	0.00%
37			アオアシシギ					3	0.02%	3	0.01%
38			キアシシギ	15	0.14%	3	0.09%	25	0.13%	43	0.13%
39			メリケンキアシシギ	1	0.01%					1	0.00%
40			ソリハシシギ					4	0.02%	4	0.01%
41			イソシギ	34	0.32%	21	0.65%	10	0.05%	65	0.20%
42			キョウジョシギ	73	0.69%	11	0.34%	18	0.10%	102	0.31%
43			ミユビシギ					2	0.01%	2	0.01%
44			トウネン					9	0.05%	9	0.03%
45			ハマシギ	1	0.01%			199	1.06%	200	0.61%
46		カモメ	ユリカモメ	124	1.18%	66	2.04%	23	0.12%	213	0.65%
47			ズグロカモメ					2	0.01%	2	0.01%
48			ウミネコ	17	0.16%	302	9.34%	3,299	17.50%	3,618	11.10%
49			カモメ					1	0.01%	1	0.00%
50			シロカモメ			1	0.03%			1	0.00%
51			セグロカモメ	6	0.06%	22	0.68%	25	0.13%	53	0.16%
52			オオセグロカモメ			4	0.12%	151	0.80%	155	0.48%
53			コアジサシ			5	0.15%	3	0.02%	8	0.02%
54	タカ	ミサゴ	ミサゴ	1	0.01%	9	0.28%	2	0.01%	12	0.04%
55		タカ	トビ	35	0.33%	1	0.03%	10	0.05%	46	0.14%
56			チュウヒ					1	0.01%	1	0.00%
57			ハイタカ	1	0.01%					1	0.00%
58			オオタカ			1	0.03%			1	0.00%
59	ブッポウソウ	カワセミ	カワセミ					2	0.01%	2	0.01%
60	ハヤブサ	ハヤブサ	ハヤブサ			1	0.03%	1	0.01%	2	0.01%
61	スズメ	セキレイ	ハクセキレイ	34	0.32%	37	1.14%	3	0.02%	74	0.23%
62			タヒバリ	1	0.01%	3	0.09%	4	0.02%	8	0.02%
計10目15科62種			地点毎の合計	10,505	100.00%	3,232	100.00%	18,847	100.00%	32,584	100.00%
			総計に対する割合		32.24%		9.92%		57.84%		100.00%

※種の分類・配列は「日本鳥類目録　改訂第7版」（日本鳥学会,2012)に従った。
表中の個体数は本年度出現した個体数の合計を示す。
:着色は個体数の多い上位3種
葛西人工渚は沖合を除外し集計した。

表7.2-3　鳥類の月別出現状況

No.	目名	科名	種名	5月	6月	9月	10月	1月	2月	合計
1	カモ	カモ	オカヨシガモ					7	17	24
2			ヒドリガモ					3	20	23
3			マガモ						11	11
4			カルガモ	18	7	4	23	5	22	79
5			ハシビロガモ					14	20	34
6			オナガガモ					4	12	16
7			コガモ					44	182	226
8			ホシハジロ					2		2
9			スズガモ	6				1407	3463	4,876
10			クロガモ						1	1
11			ウミアイサ					6	3	9
12	カイツブリ	カイツブリ	カイツブリ					1	1	2
13			アカエリカイツブリ						1	1
14			カンムリカイツブリ	2				333	4077	4,412
15			ハジロカイツブリ					5	10	15
16	カツオドリ	ウ	カワウ	2416	3486	4057	2534	2166	2635	17,294
17			ウミウ	1				6	5	12
18	ペリカン	サギ	ゴイサギ				3			3
19			ササゴイ			1				1
20			アオサギ	24	42	46	91	69	51	323
21			ダイサギ	14	20	52	88		1	175
22			チュウサギ			2				2
23			コサギ	28	31	18	50	4	8	139
24		トキ	クロツラヘラサギ					5	5	10
25	ツル	クイナ	クイナ						1	1
26			ヒクイナ				1	1		2
27			オオバン					53	50	103
28	チドリ	チドリ	ダイゼン	1	1					2
29			コチドリ	3	1	1				5
30			シロチドリ	3	1	4	46	15	21	90
31		ミヤコドリ	ミヤコドリ						32	32
32		シギ	タシギ					2	1	3
33			オオソリハシシギ	2		1				3
34			チュウシャクシギ	23						23
35			ダイシャクシギ				1		1	2
36			ホウロクシギ				1			1
37			アオアシシギ	3						3
38			キアシシギ	30		10	3			43
39			メリケンキアシシギ	1						1
40			ソリハシシギ	2	2					4
41			イソシギ	10		9	13	12	21	65
42			キョウジョシギ	98	1	3				102
43			ミユビシギ	2						2
44			トウネン	9						9
45			ハマシギ	12				100	88	200
46		カモメ	ユリカモメ	20		1	7	39	146	213
47			ズグロカモメ						2	2
48			ウミネコ	456	877	1428	857			3,618
49			カモメ						1	1
50			シロカモメ						1	1
51			セグロカモメ					23	30	53
52			オオセグロカモメ	3	2	55	94	1		155
53			コアジサシ	3	5					8
54	タカ	ミサゴ	ミサゴ		1	2	3	4	2	12
55		タカ	トビ	7	6	2	5	15	11	46
56			チュウヒ						1	1
57			ハイタカ						1	1
58			オオタカ					1		1
59	ブッポウソウ	カワセミ	カワセミ					1	1	2
60	ハヤブサ	ハヤブサ	ハヤブサ		1			1		2
61	スズメ	セキレイ	ハクセキレイ	4	3	3	3	17	44	74
62			タヒバリ					7	1	8
計10目15科62種			合計個体数	3,201	4,487	5,699	3,823	4,373	11,001	32,584
			種数	28	17	19	18	33	40	62

和名、種の配列は、日本鳥学会 (2012) 日本鳥類目録改訂第7版. 日本鳥学会. に準拠した。
葛西人工渚は沖合を除外し集計した。

イ 地点別の結果

(ア)お台場海浜公園（第六台場を含む。）

お台場海浜公園では、年間で29種、10,505羽が確認された。メリケンキアシシギが本調査の初記録となった。調査結果を表7.2-4に、主な種の確認位置を図7.2-1に示した。

種別の合計個体数は、カワウが8,853羽と最も多く、次いでスズガモ995羽、アオサギ149羽の順となった。1年を通じてカワウが優占しており、月別の上位2種は5月がカワウとキョウジョシギ、6月及び9月がカワウとアオサギ、8月がカワウとダイサギ、1月及び2月がカワウとスズガモであった。

表7.2-4　お台場海浜公園（第六台場を含む）の調査結果

No.	目	科		5	6	8	9	1	2	合計	年間優占度(%)	備考
			調査実施月									
			調査実地日	16	1	3	1	16	29			
			調査開始時刻	12:34	11:57	9:45	12:43	9:20	11:38			
			調査終了時刻	13:45	12:53	10:40	13:35	10:36	13:11			
			調査時間(分)	71	56	55	52	76	93			
			天候	晴	曇	晴	晴	晴	曇			
			気温(℃)	25.7	24.6	32.3	33.2	5.2	10.0			
			風向/風速(m)	北/1.0	南/5.6	南/3.5	南西/6.4	北西/1.0	北/1.2			
			種名 / 潮回り	中潮	中潮	大潮	大潮	中潮	中潮			
1	カモ	カモ	ヒドリガモ						3	3	0.03	
2			カルガモ	5	4 (1)		2		7	18	0.17	
3			ホシハジロ					1		1	0.01	
4			スズガモ	3				324	668	995	9.47	
5			ウミアイサ					6	2	8	0.08	
6	カイツブリ	カイツブリ	カイツブリ					1	1	2	0.02	
7			カンムリカイツブリ					5	9 (1)	14	0.13	
8			ハジロカイツブリ					4	4	8	0.08	
9	カツオドリ	ウ	カワウ	1981 (1274)	2600 (1861)	759 (281)	643 (86)	1067 (753)	1803 (1348)	8853	84.27	繁殖
10			ウミウ					1 (1)		1	0.01	
11	ペリカン	サギ	ゴイサギ				3 (3)			3	0.03	
12			アオサギ	15 (12)	27 (11)	11 (4)	29 (6)	27 (12)	40 (28)	149	1.42	
13			ダイサギ	1 (1)	2 (1)	13 (3)	7 (2)			23	0.22	
14			コサギ	6 (5)	4 (2)	6 (2)	16 (9)			32	0.30	
15	ツル	クイナ	オオバン					30 (2)	19	49	0.47	
16	チドリ	シギ	チュウシャクシギ	3						3	0.03	
17			キアシシギ	13		2				15	0.14	
18			メリケンキアシシギ	1						1	0.01	
19			イソシギ	2		2	8 (1)	5	17 (3)	34	0.32	
20			キョウジョシギ	72	1					73	0.69	
21			ハマシギ	1						1	0.01	
22		カモメ	ユリカモメ					16	108	124	1.18	
23			ウミネコ		5	5	7			17	0.16	
24			セグロカモメ					1	5 (2)	6	0.06	
25	タカ	ミサゴ	ミサゴ				1			1	0.01	
26		タカ	トビ	5 (5)	2 (2)	2 (2)	2 (2)	14 (13)	10 (5)	35	0.33	
27			ハイタカ						1	1	0.01	
28	スズメ	セキレイ	ハクセキレイ	1 (1)	1	1	1	5 (1)	25 (3)	34	0.32	
29			タヒバリ						1	1	0.01	
計 8目10科29種			合計個体数	2109 (1298)	2646 (1878)	801 (292)	719 (109)	1507 (782)	2723 (1390)	10505	100.00	
			種数	14 (6)	9 (6)	9 (5)	11 (7)	15 (6)	17 (7)	29		

和名、種の配列は、日本鳥学会 (2012) 日本鳥類目録改訂第7版. 日本鳥学会. に準拠した。
( )内は第六台場のみの個体数。
表中の数値は個体数を示す。

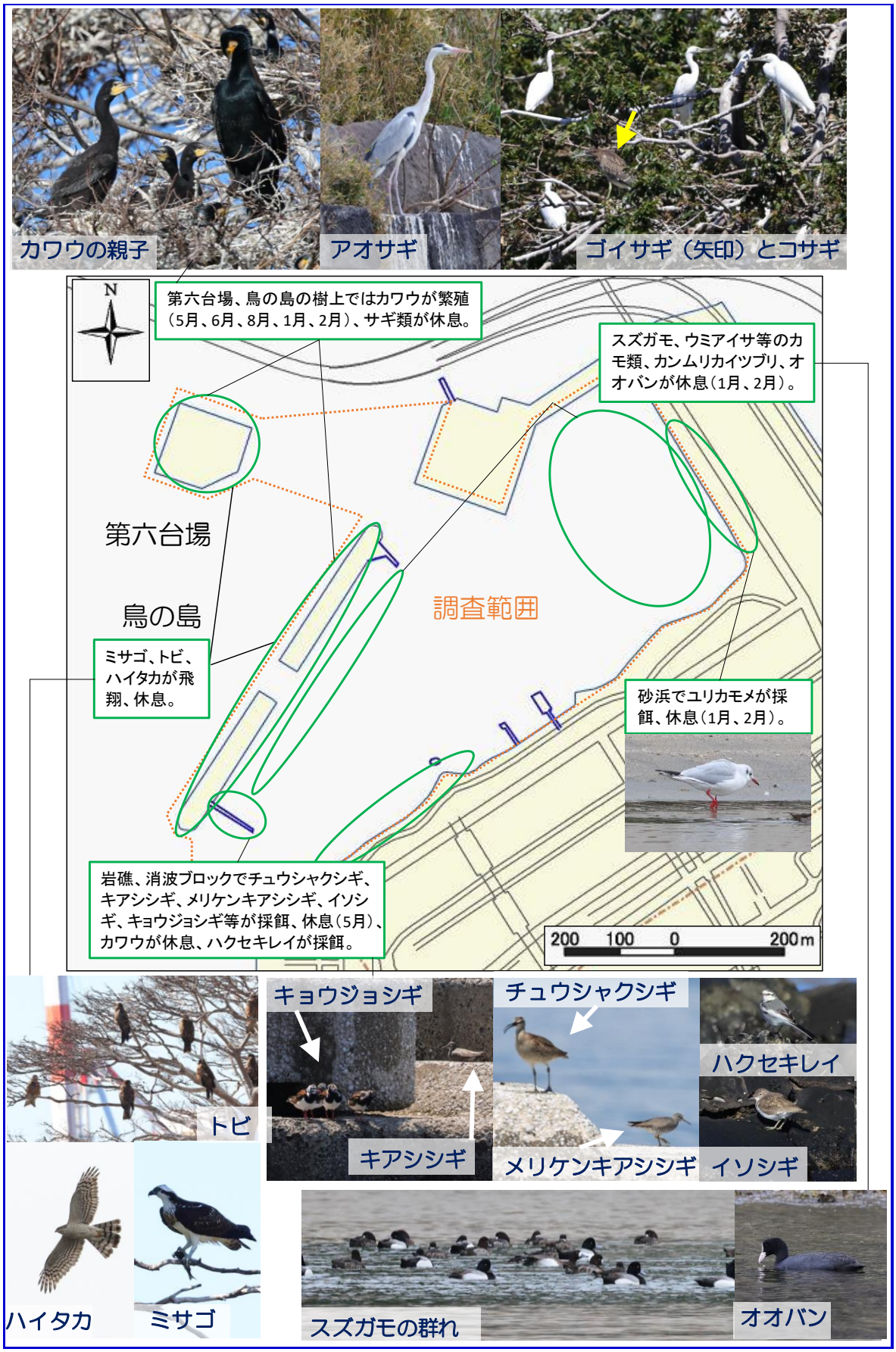


図7.2-1　主な種の確認位置（お台場海浜公園）

第六台場や鳥の島の陸域では集団繁殖するカワウ、お台場海浜公園の人工海浜や海上ではカモ類やカイツブリ類、カモメ類が多く確認された。

カワウは最大2,600羽が確認された。冬季から春季にかけて第六台場と鳥の島で集団繁殖しており、特に第六台場での営巣数が多い。月別の営巣数を表7.2-5に示した。5月から6月にかけては繁殖期の終盤で、大きく育った雛のほか、巣外で幼鳥が多く確認された。8月は1巣のみ、9月は営巣が終了し、成鳥の個体数も減少した。1月になると新たな営巣期が始まり、雛の鳴き声が多く聞かれたほか、巣内に大きく育った雛の姿も見られた。2月は第六台場と鳥の島のどちらも営巣数が増加し、合計1,054巣を記録した。

表7.2-5　カワウの月別営巣数

記録月	5月	6月	8月	9月	1月	2月
第六台場	310	79	1	0	554	795
鳥の島	69	28	0	0	127	259
合　計	379	107	1	0	681	1054

サギ類はゴイサギ、アオサギ、ダイサギ、コサギの4種が確認された。特にアオサギが多く、2月に40羽、9月に29羽が確認された。ダイサギは5月に繰り返し枝を運ぶ行動が確認されたが、サギ類の巣は確認できなかった。かつてサギ類が多く営巣していた第六台場南東側は、笹藪が低木林に置き変わる等、植生が変化している。

シギ・チドリ類では、5月にキアシシギやキョウジョシギ等、6種が鳥の島の護岸やお台場海浜公園の岩場で確認された。個体数はキョウジョシギが多く72羽、次いでキアシシギが13羽であった。稀な記録として、本調査初記録のメリケンキアシシギ1羽のほか、お台場海浜公園では初となるハマシギ1羽が護岸で休息していた。このほか、ほぼ1年を通じてイソシギが第六台場や鳥の島周辺の護岸、消波ブロック、お台場海浜公園等全域で確認された。

カモ類は、1月及び2月の越冬期に5種が記録され、主に鳥の島からお台場海浜公園にかけての海上に分布していた。個体数はスズガモが多く、最大668羽が記録された。他のカモ類は少なく、最大でもカルガモ7羽、ウミアイサ6羽、ヒドリガモ3羽、ホシハジロ1羽であった。ユリカモメは1月から2月にかけて、主にお台場海浜公園の砂浜（おだいばビーチ）に分布し、建物の屋根に集まって休息する個体も見られた。

タカ類は、お台場海浜公園で初記録となるハイタカが2月に見られたほか、トビが通年観察された。トビは最大14羽が確認され、特に第六台場周辺に多い。カワウの雛の死体等、食物が増えたことが、トビが集まるようになった要因と考えられる。

(イ)森ヶ崎の鼻

森ヶ崎の鼻では年間で35種、3,232羽が確認された。シロカモメが本調査の初記録となった。調査結果を表7.2-6に、主な種の確認位置を図7.2-2に示した。

種別の合計個体数は、カワウが2,090羽と最も多く、次いでウミネコ302羽、コガモ215羽の順となった。月別で個体数が多い上位2種は、5月と6月がカワウとコサギ、8月と9月がカワウとウミネコ、1月がコガモとアオサギ、2月がコガモとユリカモメであった。

表7.2-6　森ヶ崎の鼻の調査結果

No.	目	科	調査実施月	5	6	8	9	1	2	合計	年間優占度(%)	備考
			調査実地日	16	1	3	1	16	29			
			調査開始時刻	8:34	8:30	11:16	11:11	13:35	13:34			
			調査終了時刻	9:26	9:20	12:15	12:10	14:31	14:33			
			調査時間(分)	52	50	59	59	56	59			
			天候	晴	晴	晴	晴	晴	曇			
			気温(℃)	22.0	21.8	32.8	30.2	7.2	11.0			
			風向/風速(m)	北/3.2	-/無風	南/4.7	南/5.4	北西/5.1	北/1.0			
			種名 / 潮回り	中潮	中潮	大潮	大潮	中潮	中潮			
1	カモ	カモ	オカヨシガモ					7	17	24	0.74	
2			ヒドリガモ					3	16	19	0.59	
3			マガモ						4	4	0.12	
4			カルガモ	11	1	1	20	5	15	53	1.64	
5			ハシビロガモ					14	20	34	1.05	
6			オナガガモ					4	12	16	0.50	
7			コガモ					44	171	215	6.65	
8			ホシハジロ					1		1	0.03	
9	カイツブリ	カイツブリ	カンムリカイツブリ					1	1	2	0.06	
10	カツオドリ	ウ	カワウ	82	232	671	1099	2	4	2090	64.67	
11			ウミウ					2		2	0.06	
12	ペリカン	サギ	ササゴイ			1				1	0.03	
13			アオサギ	5	9	21	41	29	3	108	3.34	
14			ダイサギ	1	7	13	44			65	2.01	
15			チュウサギ			2				2	0.06	
16			コサギ	15	10	5	15	1		46	1.42	
17	ツル	クイナ	オオバン					23	31	54	1.67	
18	チドリ	チドリ	コチドリ	3		1				4	0.12	隣接地で繁殖
19			シロチドリ		1	2				3	0.09	隣接地で繁殖
20		シギ	チュウシャクシギ	2						2	0.06	
21			キアシシギ	2		1				3	0.09	
22			イソシギ	2		5	4	6	4	21	0.65	
23			キョウジョシギ	11						11	0.34	
24		カモメ	ユリカモメ			1	7	23	35	66	2.04	
25			ウミネコ		3	200	99			302	9.34	
26			シロカモメ						1	1	0.03	
27			セグロカモメ					11	11	22	0.68	
28			オオセグロカモメ				3	1		4	0.12	
29			コアジサシ	3	2					5	0.15	隣接地で繁殖
30	タカ	ミサゴ	ミサゴ		1	2	2	2	2	9	0.28	
31		タカ	トビ				1			1	0.03	
32			オオタカ					1		1	0.03	
33	ハヤブサ	ハヤブサ	ハヤブサ		1					1	0.03	
34	スズメ	セキレイ	ハクセキレイ	2	2	2	2	11	18	37	1.14	
35			タヒバリ					3		3	0.09	
計 9目12科35種			合計個体数	139	269	928	1337	194	365	3232	100.00	
			種数	12	11	15	12	21	17	35		

和名、種の配列は、日本鳥学会(2012)日本鳥類目録改訂第7版. 日本鳥学会. に準拠した。
表中の数値は個体数を示す。

図7.2-2　主な種の確認位置（森ヶ崎の鼻）

森ヶ崎の鼻の干潟ではカワウ、サギ類、カモメ類が多く、時期によってコアジサシやシギ・チドリ類も少数見られた。護岸付近や海上では、カモ類やオオバン等が確認された。

カモ類は越冬期の1月及び2月に種数、個体数とも増加した。調査地北東側の京浜島付近ではカルガモ、ハシビロガモ、コガモが採餌する様子が見られ、南西側のスロープ状になった護岸にはコガモの群れが休息、南端の羽田空港側や付近の海上にはオカヨシガモ、ヒドリガモ、マガモ、オナガガモ、コガモ等が採餌・休息していた。

サギ類はアオサギの個体数が多く、調査地北側の護岸や矢板の上にとまっているか、干潟で採餌・休息する個体が見られた。ダイサギは5月から9月にかけて干潟で採餌・休息する個体が見られた。コサギは5月から1月にかけて護岸や干潟で見られた。

シギ・チドリ類は6種が記録された。護岸付近を利用する種が多く、チュウシャクシギ、イソシギ、キョウジョシギは護岸だけで確認された。シロチドリは干潟のみ、コチドリとキアシシギは護岸と干潟の両方を利用していた。コチドリとシロチドリは調査地に隣接する森ヶ崎水再生センターの屋上で繁殖が確認されている[6]。

カモメ類は5種が記録され、主に干潟で休息していた。出現時期は種によって異なり、ウミネコは6月から9月にかけて、オオセグロカモメは9月から1月にかけて、ユリカモメは8月から2月にかけて、セグロカモメは1月から2月にかけて、シロカモメは2月に見られた。ユリカモメは森ヶ崎水再生センターからの排水口（調査範囲外）に群れていることが多く、飛び立った個体が時折、森ヶ崎の鼻との間を往来する様子が見られた。

コアジサシは非常に少なく、5月に3羽、6月に2羽が上空を飛翔するのが確認されただけで、幼鳥は見られなかった。調査地に隣接する森ヶ崎水再生センターの屋上でコアジサシの保全活動を行っている「特定非営利活動法人リトルターン・プロジェクト」のホームページによると、令和5年度はコアジサシの初認が4月16日、営巣開始が5月20日、成鳥最大数24羽、総営巣数12巣、推定ふ化数（雛数）0羽で幼鳥は巣立たなかった[7]。巣立ちがなかったのは平成24年度以来11年ぶり、雛がふ化しなかったのは平成23年度以来12年ぶりとなる。

[6] 「5/28 の営巣調査結果」https://littletern.hatenablog.com/entry/2023/05/29/232642
[7] 「2023年、11年ぶりコアジサシ巣立ち0羽」https://littletern.hatenablog.com/entry/2023/08/13/151438

(ウ)葛西人工渚（東なぎさ）

葛西人工渚[8]では49種18,847羽、沖合では11種19,690羽が確認され、これらを合わせると51種38,537羽となる。沖合でのみ確認されたのはホオジロガモと、本調査初記録となるトウゾクカモメであった。調査結果を表7.2-7に、主な種の確認位置を図7.2-3に示した。

表7.2-7　葛西人工渚（東なぎさ）の調査結果

No.	目	科	調査実施月	5		6		8		9		1		2		合計		年間優占度(%)	備考
			調査実地日	16		1		3		1		16		29					
			調査開始時刻	10:12		10:07		13:34		8:53		11:23		9:19					
			調査終了時刻	11:54		11:13		14:55		10:16		12:46		11:03					
			調査時間(分)	102		66		81		83		83		104					
			天候	晴		晴		晴		晴		晴		曇					
			気温(℃)	22.8		22.7		33.3		29.0		7.0		8.2					
			風向/風速(m)	北/4.0		南/0.5		南/5.4		南西/3.2		北西/5.8		北/2.0					
			潮回り	中潮		中潮		大潮		大潮		中潮		中潮					
			種名 / 確認位置	範囲内	沖合	範囲内	沖合	範囲内	沖合	範囲内	沖合	範囲内	沖合	範囲内	沖合	範囲内	沖合		
1	カモ	カモ	ヒドリガモ											1		1		0.01	
2			マガモ											7		7		0.04	
3			カルガモ	2		2		3		1						8		0.04	隣接地で繁殖
4			コガモ											11		11		0.06	
5			スズガモ	3								1083	6401	2795	4152	3881	10553	20.59	
6			クロガモ											1		1		0.01	
7			ホオジロガモ										1				1		
8			ウミアイサ										1	1		1	1	0.01	
9	カイツブリ	カイツブリ	アカエリカイツブリ											1		1		0.01	
10			カンムリカイツブリ	2								327	871	4067	628	4396	1499	23.32	
11			ハジロカイツブリ									1		6	487	7	487	0.04	
12	カツオドリ	ウ	カワウ	353	14	654	13	2627	13	792	6510	1097		828		6351	6550	33.70	
13			ウミウ	1								3		5		9		0.05	
14	ペリカン	サギ	アオサギ	4		6		14		21		13		8		66		0.35	
15			ダイサギ	12		11		26		37				1		87		0.46	
16			コサギ	7		17		7		19		3		8		61		0.32	
17		トキ	クロツラヘラサギ									5		5		10		0.05	
18	ツル	クイナ	クイナ											1		1		0.01	
19			ヒクイナ							1		1				2		0.01	
20	チドリ	チドリ	ダイゼン	1		1										2		0.01	
21			コチドリ			1										1		0.01	
22			シロチドリ	3				2		46		15		21		87		0.46	
23		ミヤコドリ	ミヤコドリ											32		32		0.17	
24		シギ	タシギ									2		1		3		0.02	
25			オオソリハシシギ	2				1								3		0.02	
26			チュウシャクシギ	18												18		0.10	
27			ダイシャクシギ							1				1		2		0.01	
28			ホウロクシギ							1						1		0.01	
29			アオアシシギ	3												3		0.02	
30			キアシシギ	15				7		3						25		0.13	
31			ソリハシシギ	2		2										4		0.02	
32			イソシギ	6				2		1		1				10		0.05	
33			キョウジョシギ	15				3								18		0.10	
34			ミユビシギ	2												2		0.01	
35			トウネン	9												9		0.05	
36			ハマシギ	11								100		88		199		1.06	
37		カモメ	ユリカモメ	20										3		23		0.12	
38			ズグロカモメ											2		2		0.01	
39			ウミネコ	456	1	869	72	1223	513	751	5					3299	591	17.50	隣接地で繁殖
40			カモメ											1		1		0.01	
41			セグロカモメ									11		14		25		0.13	
42			オオセグロカモメ	3		2		55	1	91						151	1	0.80	
43			コアジサシ			3										3		0.02	
44		トウゾクカモメ	トウゾクカモメ										1				1		
45	タカ	ミサゴ	ミサゴ		1		1					2	1		1	2	4	0.01	
46		タカ	トビ	2		4				2		1		1		10		0.05	
47			チュウヒ											1		1		0.01	
48	ブッポウソウ	カワセミ	カワセミ									1		1		2		0.01	
49	ハヤブサ	ハヤブサ	ハヤブサ									1	2			1	2	0.01	
50	スズメ	セキレイ	ハクセキレイ	1								1		1		3		0.02	
51			タヒバリ									4				4		0.02	
計 10目16科51種			個体数	953	16	1572	86	3970	527	1767	6515	2672	7278	7913	5268	18847	19690	100.00	
			種数	25	3	12	3	12	3	14	2	20	7	29	4	49	11		

和名、種の配列は、日本鳥学会 (2012) 日本鳥類目録改訂第7版. 日本鳥学会. に準拠した。
表中の数値は個体数を示す。
年間優占度については沖合を除外し集計した。

[8] 東なぎさは鳥類保護のため立入禁止になっているが、平成11年度以降は干潟に立ち入って調査を実施している。干潟が広く1か所では全体が見えないため、平成23年度以降は2か所から定点観察を行っている。

図7.2-3　主な種の確認位置（葛西人工渚）

種別の合計個体数は、カワウが6,351羽と最も多く、次いでカンムリカイツブリ4,396羽、スズガモ3,881羽の順となった。月別で個体数が多い上位2種は、5月と6月がウミネコとカワウ、8月と9月がカワウとウミネコ、1月がカワウとスズガモ、2月がカンムリカイツブリとスズガモであった。

カモ類は7種が記録され、種数と個体数は1月及び2月に増加した。最も個体数が多いスズガモは、海上に浮かぶ群れの位置が調査範囲内に入るかどうかによって、記録される個体数が大きく変わる。令和5年度は1月に1,083羽、2月に2,795羽であったが、過半数が沖合に分布しており、沖合を含めた個体数は1月に7,484羽、2月に6,947羽である。留鳥のカルガモは近隣の葛西臨海公園鳥類園で繁殖が確認されている[9]。

カイツブリ類ではカンムリカイツブリが多く、1月に327羽、2月に4,067羽が見られた。沖合を含めた個体数は1月に1,198羽、2月に4,695羽であった。

カワウは全ての調査で記録され、8月に2,627羽と個体数が多かった。観察されたカワウの多くは干潟や消波ブロックの上で休息していた。ウミウは冬季を中心に消波ブロックで休息する姿が見られ、5月に1羽、1月に3羽、2月に5羽が記録された。

サギ類は3種が記録され、個体数は8月及び9月に多かった。最大数はアオサギ21羽、ダイサギ37羽、コサギ19羽であった。

クロツラヘラサギは1月及び2月に過去最多の5羽が見られ、主に消波ブロックの上で休息していた。

シギ・チドリ類は17種が記録された。5月は12種87羽と多かったのに対し、秋の渡り時期である8月は5種15羽、9月は5種52羽であった。1月は4種、2月は5種と種数は多くないが、個体数は100羽以上に増加した。

カモメ類は6種が記録され、ウミネコが5月から9月にかけて多く、最大1,223羽であった。オオセグロカモメは8月及び9月にかけて多く、最大91羽であった。冬季はカモメ類が少なく、1月はセグロカモメ11羽のみ、2月はユリカモメ3羽、ズグロカモメ2羽、カモメ1羽、セグロカモメ14羽の4種20羽であった。カモメ類は主に干潟や海上で休息、飛翔していた。

アジサシ類は6月にコアジサシ3羽の鳴き声が聞かれたのみであった。

タカ・ハヤブサ類は4種が記録され、トビが8月を除く全ての調査で確認された。ミサゴは沖合の杭にとまっていることが多く、調査範囲に入ったのは1月に干潟に飛来した2羽のみであった。チュウヒは2月にヨシ原上空を低く飛ぶ1羽が見られた。ハヤブサは1月に東なぎさ上空を1羽が飛翔したほか、沖合で2羽がハンティングを行う様子が確認された。

[9] 「ホトトギスが鳴いていました 先週末の鳥類園 (20223.5.20～21)」https://choruien2.exblog.jp/30329089/

(エ)砂町運河でのウミネコの繁殖確認について

砂町運河の防衝杭上で営巣するウミネコが初めて観察されたのは平成27年6月で[10]、その後は春季調査を実施できなかった令和2年度を除き、毎年度繁殖が確認されている。

令和5年度は5月に成鳥68羽が確認され、そのうち24羽が防衝杭上で営巣中と考えられた。6月は営巣中の10羽を含む成鳥67羽と雛4羽の姿が見られた（写真1から写真3まで）。令和4年度から京葉線の高架でも営巣するようになり、令和5年度は5月に3巣、6月に2巣が確認された（写真4）。2月調査では57羽の成鳥が確認され、順調に次の繁殖に入りつつあると推測された。

東京都内では、平成9年に台東区上野の不忍池でウミネコの繁殖が確認され、以後、台東区、墨田区、江東区のビル屋上での営巣が確認されている[11]。しかし、ビル屋上ではウミネコが集まると鳴き声による騒音や糞による悪臭についての苦情により、営巣できない対策が講じられるようになった。そのため、ウミネコは営巣地を台東区から墨田区、江東区へと移し、当地で営巣するようになった可能性が考えられる。東京湾の防衝杭上は人の影響を受けずに営巣できる場所である。今後、防衝杭だけでなく京葉線高架での営巣数が増えると、ウミネコが急増する可能性も考えられるため、繁殖状況の変化に注意が必要である。

写真1　ウミネコが繁殖する防衝杭（6月）

写真2　抱卵中と思われる成鳥（5月）

写真3　成鳥と雛（6月）

写真4　京葉線の高架につくられた巣（5月）

[10] 奴賀俊光・小島一幸・永友繁・前川真紀子. 2017. 東京都内湾運河部の人工構造物上で初めて確認されたウミネコの繁殖記録. Bird Research 13: S1-S4.
[11] 松丸一郎・樋口広芳. 2016. 東京におけるウミネコ屋上繁殖の現状. Urban Birds 33: 42-59.

ウ 既往調査結果との比較

令和5年度調査でメリケンキアシシギとシロカモメの2種が初記録となり、昭和60年度以降の東京都内湾水生生物調査で確認された鳥類は合計101種となった。このほか、範囲外であるが葛西人工渚の沖合でトウゾクカモメが新たに確認された。全地点の確認種数の経年変化を図7.2-4に、年度別確認種の一覧を表7.2-8(1)、(2)に示した。

年間の合計確認種数は増加傾向にあり、近年は多い年で63種（平成31年度）、62種（令和3年度と令和5年度）の記録がある。種数の増減に影響を与えた要因として調査頻度の変化があり、昭和60年度から平成10年度まで及び平成14年度から平成16年度までは月1回、平成11年度から平成13年度までは月2回、平成22年度以降は月0.5回で実施している。

また、お台場海浜公園が平成9年度から調査地に加わったこと、葛西人工渚で平成11年度以降は干潟に立ち入って調査を実施していること、葛西人工渚の観察地点を平成23年度以降は1か所から2か所に増やして視界を確保したこと、ミサゴとトビ以外の猛禽類が平成30年度から調査対象種に加わったことも関係していると考えられる。令和2年度に減少したのはコロナ禍のため春季調査を実施できなかった影響が大きい。

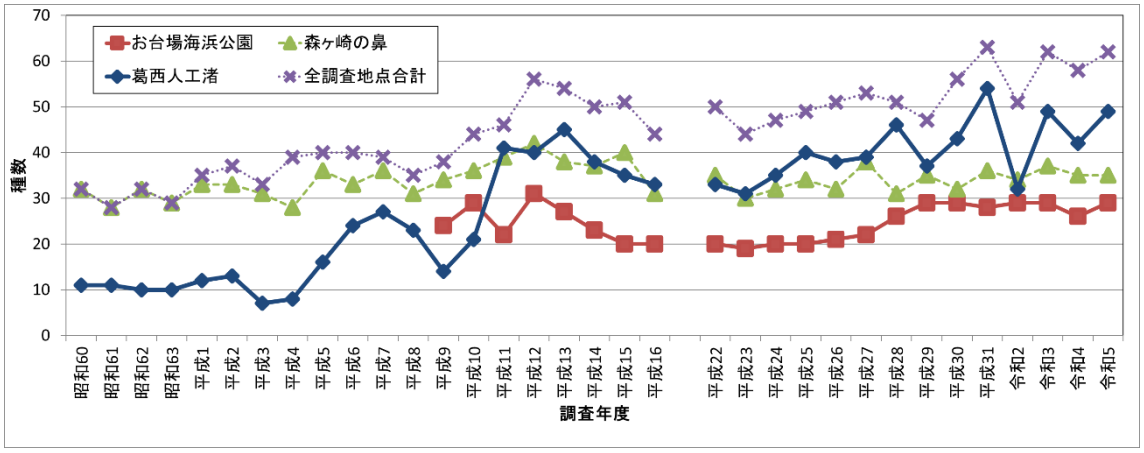


図7.2-4　確認種数の経年変化

表7.2-8(1)　年度別確認種

No.	種名	調査年度																					
		昭和				平成																	
		60	61	62	63	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	22	23	24
1	オカヨシガモ						●	●		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		●	●	●
2	ヨシガモ																							
3	ヒドリガモ					●	●	●		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
4	マガモ			●			●		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
5	カルガモ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	カルガモ雑種																							
6	ハシビロガモ	●	●	●		●	●			●		●		●	●	●	●	●				●	●	●
7	オナガガモ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
8	シマアジ																					●		
9	トモエガモ																							
10	コガモ		●					●				●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
11	ホシハジロ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
12	キンクロハジロ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
13	スズガモ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
14	クロガモ																●							
15	ホオジロガモ												●			●	●							
16	ミコアイサ																●							
17	ウミアイサ																●		●					
	カモsp.	●		●	●				●						●	●								
18	カイツブリ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		●	●		●	●	●	●		●		●
19	アカエリカイツブリ																		●	●				
20	カンムリカイツブリ					●	●			●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
21	ミミカイツブリ						●	●													●			
22	ハジロカイツブリ						●		●	●	●		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		●
23	アビ																							
24	コウノトリ																							
25	カワウ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
26	ウミウ																							
27	ヨシゴイ																							
28	ゴイサギ	●		●										●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
29	ササゴイ														●							●		●
30	アマサギ																							
31	アオサギ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
32	ダイサギ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
33	チュウサギ						●				●						●	●		●				
34	コサギ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
35	クロサギ														●									
36	カラシラサギ																							
	サギsp.			●		●																		
37	ヘラサギ																	●						
38	クロツラヘラサギ															●		●		●				●
39	クイナ																	●				●		
40	ヒクイナ																							
41	バン															●	●	●	●	●	●			
42	オオバン																				●	●	●	●
43	タゲリ																							
44	ケリ																							
45	ムナグロ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		●	●	●	●	●	●	●		●	●	●
46	ダイゼン	●			●	●		●		●	●	●			●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
47	イカルチドリ																●							
48	コチドリ			●		●	●	●	●	●	●	●		●	●	●	●	●		●		●	●	●
49	シロチドリ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
50	メダイチドリ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
51	オオメダイチドリ																	●		●				●
	チドリsp.			●	●	●			●															
52	ミヤコドリ															●	●	●	●	●	●	●	●	●
53	セイタカシギ										●					●	●	●		●	●			
54	タシギ																							
55	オグロシギ	●		●	●	●	●	●		●		●			●		●	●						
56	オオソリハシシギ	●		●	●	●	●	●	●	●	●		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
57	チュウシャクシギ		●					●		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
58	ダイシャクシギ									●	●				●	●	●	●		●	●	●	●	●
59	ホウロクシギ										●	●	●			●	●	●	●	●	●	●	●	●
60	アカアシシギ																	●		●				
61	コアオアシシギ																●					●		
62	アオアシシギ	●		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
63	クサシギ																							
64	キアシシギ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
65	メリケンキアシシギ																							
66	ソリハシシギ	●	●	●	●	●	●			●	●	●		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
67	イソシギ				●	●			●	●	●	●	●		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
68	キョウジョシギ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
69	オバシギ									●							●		●	●		●		
70	コオバシギ																		●					
71	ミユビシギ																		●					
72	トウネン	●	●	●		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
73	サルハマシギ																							
74	ハマシギ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
75	キリアイ	●																●						
	シギsp.		●	●	●	●	●		●	●	●		●	●										
76	ユリカモメ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
77	ズグロカモメ																				●			
78	ワライカモメ																		●					
79	ウミネコ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
80	カモメ	●	●	●		●	●		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●				●
81	ワシカモメ																●							
82	シロカモメ																							
83	セグロカモメ	●	●	●	●	●		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
84	オオセグロカモメ					●				●		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	小型カモメ																							
	中型カモメ																							
	大型カモメ																●							
	カモメsp.	●		●	●	●	●	●						●										
85	オニアジサシ																							
86	コアジサシ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
87	アジサシ	●	●	●	●	●	●	●	●		●	●	●		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
88	クロハラアジサシ																		●				●	
89	ハジロクロハラアジサシ																						●	
	アジサシsp.	●		●	●		●																	
90	ミサゴ				●												●	●	●	●	●	●	●	●
91	トビ																							
92	チュウヒ																							
93	ハイタカ																							
94	オオタカ																							
95	ノスリ																							
96	カワセミ																							
97	チョウゲンボウ																							
98	ハヤブサ																							
99	ハクセキレイ	●		●	●	●	●	●		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
100	セグロセキレイ		●																					
101	タヒバリ																		●		●	●		
	種数合計	32	28	32	29	35	37	33	29	40	40	39	35	38	44	46	56	54	50	51	44	50	44	47

葛西人工渚の沖合は集計に含まない。

ミサゴとトビ以外の猛禽類は平成29年度まで調査対象としていない。

表7.2-8(2)　年度別確認種

No.	種名	調査年度										
		平成							令和			
		25	26	27	28	29	30	31	2	3	4	5
1	オカヨシガモ		●			●		●	●	●	●	●
2	ヨシガモ										●	
3	ヒドリガモ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
4	マガモ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
5	カルガモ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	カルガモ雑種			●								
6	ハシビロガモ	●	●	●		●	●	●	●	●	●	●
7	オナガガモ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
8	シマアジ											
9	トモエガモ										●	
10	コガモ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
11	ホシハジロ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
12	キンクロハジロ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
13	スズガモ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
14	クロガモ							●		●		●
15	ホオジロガモ							●		●	●	
16	ミコアイサ											
17	ウミアイサ	●	●		●	●	●	●	●	●	●	●
	カモsp.											
18	カイツブリ			●					●			●
19	アカエリカイツブリ											●
20	カンムリカイツブリ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
21	ミミカイツブリ											
22	ハジロカイツブリ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
23	アビ							●				
24	コウノトリ										●	
25	カワウ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
26	ウミウ						●	●	●	●	●	●
27	ヨシゴイ		●						●			
28	ゴイサギ	●	●	●	●	●	●	●			●	●
29	ササゴイ		●	●	●		●	●	●	●		●
30	アマサギ			●		●						
31	アオサギ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
32	ダイサギ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
33	チュウサギ	●					●	●	●	●	●	●
34	コサギ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
35	クロサギ											
36	カラシラサギ			●								
	サギsp.											
37	ヘラサギ			●	●					●		
38	クロツラヘラサギ		●	●	●		●	●	●	●	●	●
39	クイナ						●	●		●		●
40	ヒクイナ								●	●	●	●
41	バン	●	●	●	●	●	●					
42	オオバン	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
43	タゲリ									●		
44	ケリ								●			
45	ムナグロ	●		●	●	●	●	●	●	●		
46	ダイゼン	●	●	●	●			●		●		●
47	イカルチドリ											
48	コチドリ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
49	シロチドリ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
50	メダイチドリ	●	●	●	●	●	●	●		●	●	
51	オオメダイチドリ											
	チドリsp.											
52	ミヤコドリ	●	●	●	●	●	●	●		●	●	●
53	セイタカシギ							●				
54	タシギ		●				●	●	●	●	●	●
55	オグロシギ											
56	オオソリハシシギ	●	●	●				●		●	●	●
57	チュウシャクシギ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
58	ダイシャクシギ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
59	ホウロクシギ	●	●	●	●	●	●	●		●	●	●
60	アカアシシギ											
61	コアオアシシギ							●		●		
62	アオアシシギ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
63	クサシギ						●					
64	キアシシギ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
65	メリケンキアシシギ											●
66	ソリハシシギ	●	●	●	●		●	●	●	●	●	●
67	イソシギ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
68	キョウジョシギ	●	●	●	●	●	●	●		●	●	●
69	オバシギ		●		●							
70	コオバシギ											
71	ミユビシギ				●	●	●	●				●
72	トウネン	●	●	●	●	●	●	●	●			●
73	サルハマシギ	●						●				
74	ハマシギ	●	●	●	●	●	●		●	●	●	●
75	キリアイ				●							
	シギsp.											
76	ユリカモメ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
77	ズグロカモメ	●		●	●	●		●				●
78	ワライカモメ											
79	ウミネコ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
80	カモメ	●	●	●		●	●	●			●	●
81	ワシカモメ											
82	シロカモメ											●
83	セグロカモメ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
84	オオセグロカモメ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	小型カモメ	●										
	中型カモメ	●										
	大型カモメ	●		●	●	●	●					
	カモメsp.											
85	オニアジサシ							●				
86	コアジサシ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
87	アジサシ	●	●	●	●	●	●			●	●	
88	クロハラアジサシ											
89	ハジロクロハラアジサシ			●					●			
	アジサシsp.											
90	ミサゴ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
91	トビ	●		●		●	●	●	●	●	●	●
92	チュウヒ									●		●
93	ハイタカ									●	●	●
94	オオタカ						●	●		●	●	●
95	ノスリ						●	●	●	●	●	
96	カワセミ				●			●	●	●	●	●
97	チョウゲンボウ						●		●			
98	ハヤブサ									●	●	●
99	ハクセキレイ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
100	セグロセキレイ											
101	タヒバリ		●		●		●	●	●	●	●	●
種数合計		49	51	53	51	47	56	63	51	62	58	62

葛西人工渚の沖合は集計に含まない。

ミサゴとトビ以外の猛禽類は平成29年度まで調査対象としていない。

（ア）お台場海浜公園

お台場海浜公園における、最大個体数と確認種数の経年変化を図7.2-5に、各年度の最大個体数を表7.2-9に示した。

最大個体数は、平成9年度から平成12年度まで2,716～3,700羽で推移した後、平成13年度から令和2年度まではやや減少して1,644～2,735羽で推移した。令和3年度からはカワウの生息数増加に伴い最大個体数が増加し、令和5年度は3,671羽であった。

確認種数は、令和5年度にメリケンキアシシギ、ハマシギ、ハイタカの3種が加わり53種となった。単年度の確認種数は平成12年度に最多の31種を記録した後、やや減少して20種前後を推移していたが、平成28年度以降は26～29種で安定している。令和5年度は29種であった。

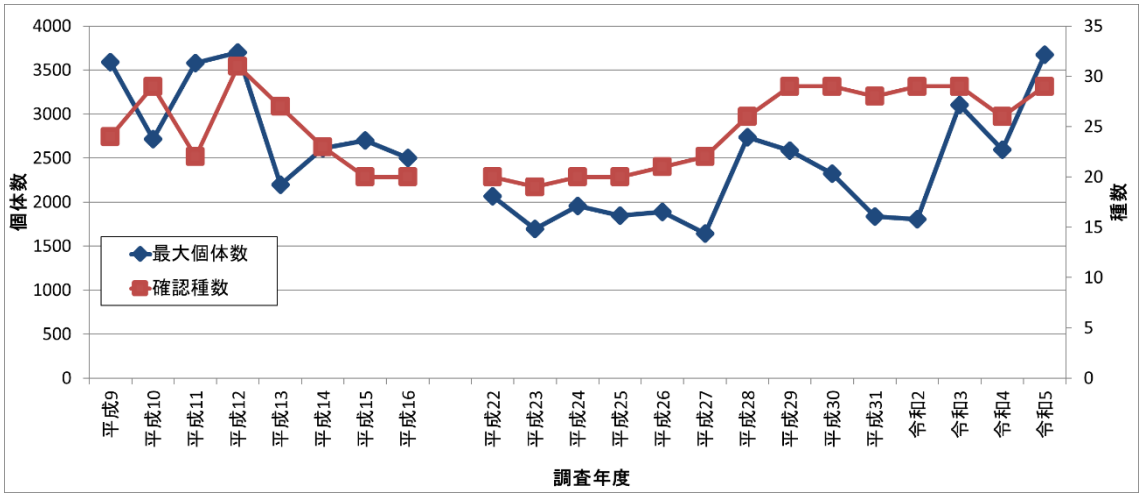


図7.2-5　お台場海浜公園の最大個体数、確認種数の経年変化

表7.2-9　お台場海浜公園の最大個体数の経年変化

No.	種名	調査年度																						最大個体数
		平成9	平成10	平成11	平成12	平成13	平成14	平成15	平成16	平成22	平成23	平成24	平成25	平成26	平成27	平成28	平成29	平成30	平成31	令和2	令和3	令和4	令和5	
1	オカヨシガモ		8		2												8			3	4			8
2	ヒドリガモ	11	1		5											1		6		2	3		3	11
3	マガモ	16	12	18	25	4	2					12	6	2		9	2	4	9	2	1			25
4	カルガモ	27	38	38	50	28	25	22	9	16	18	15	11	12	22	19	26	17	19	69	63	17	7	69
	カルガモ雑種														4									4
5	ハシビロガモ					2												2						2
6	オナガガモ	98	108	70	56	47	48	44	68	4	11	13	21	19	7	10	3	1		1				108
7	シマアジ									1														1
8	コガモ	1				12											17	1						17
9	ホシハジロ	76	9	66	45	4	4	1	9	4			11	13		24	228	5	4	10	129	52	1	228
10	キンクロハジロ	289	1		362	35									2		6			1	6	3		362
11	スズガモ	1200	728	1800	901	430	832	974	967	698	922	527	365	740	532	780	911	758	516	564	725	721	668	1800
12	ホオジロガモ				26																1			26
13	ミコアイサ				2																			2
14	ウミアイサ				2												9	5	5	4	6	6	6	9
15	カイツブリ	1	2				2			1					1					1			1	2
16	アカエリカイツブリ						1																	1
17	カンムリカイツブリ	1	1	3	9	4	7	4	1					1	8	12	2	2	10	16	37	15	9	37
18	ミミカイツブリ								1															1
19	ハジロカイツブリ				5				2			2		4		3	2	2	2	5	5	3	4	5
20	カワウ	1081	851	775	1486	677	896	785	621	1146	530	1048	1131	851	622	1099	887	730	999	983	1820	1436	2600	2600
21	ウミウ																	1	2	3	2	1	1	3
22	ゴイサギ	9	5	33	1	5	14	20	8	6	2	20	7	4	8	2	2	19	2			2	3	33
23	ササゴイ		1													1								1
24	アオサギ	20	33	32	81	41	36	44	40	27	19	43	37	48	43	53	53	65	43	26	41	27	40	81
25	ダイサギ	8	33	13	10	12	2	4	4	8	6	13	6	11	12	16	34	8	3	3	21	3	13	34
26	チュウサギ				1													1	1	4				4
27	コサギ	18	5	36	20	19	27	47	30	4	25	20	47	45	83	171	65	206	17	5	5	6	16	206
28	クロサギ		3																					3
29	オオバン									3	2	14	16	5	9	29	18	23	24	28	35	19	30	35
30	コチドリ		1			1											1		1			2		2
31	シロチドリ														2									2
32	チュウシャクシギ		1		1	1		1		3						3	3						3	3
33	キアシシギ	8	4	5	5	4	3	10	1	18	14	7	5	11	21	15	15	8	3	1	3	6	13	21
34	メリケンキアシシギ																						1	1
35	イソシギ	2	2	2	3	2	1	3	1	5	4	10	2	5	7	5	6	5	6	12	11	10	17	17
36	キョウジョシギ	119	185	86	63	25	6	29	3	49	22	25	4	34	50	53	100	196	8		49	9	72	196
37	ハマシギ																						1	1
38	ユリカモメ	472	533	390	371	674	605	586	683	68	93	167	128	50	87	386	147	214	137	28	111	228	108	683
39	ウミネコ	97	126	82	62	57	54	76	16	2	21	8	34	23	104	9	12	30	10	15	3	4	7	126
40	カモメ	1	6	4	24	61	18	6				2		4	7		2	1	3					61
41	ワシカモメ				1																			1
42	セグロカモメ	24	1	68	67	24	17	38	25	2	1	5	9	3	5	14	5	2	4	3	4	2	5	68
43	オオセグロカモメ		3	28	6	13	1	1			1	1	2					1		1	1	1		28
	中型カモメ												1											1
	カモメsp.	2																						2
44	コアジサシ	4	13	23	4	10	9	2	12		3				3	14	14	6	2					23
45	アジサシ			6		3										1								6
46	ミサゴ										1					1				1			1	1
47	トビ												1				1		1	3	5	13	14	14
48	オオタカ																		1		2	1		2
49	ハイタカ																						1	1
50	ノスリ																		1	3	1	2		3
51	カワセミ																				1			1
52	ハクセキレイ	2	2	2	4	1	2			3	2	4	2	4	5	5	8	6	3	6	6	6	25	25
53	タヒバリ								1														1	1
最大個体数の合計		3587	2716	3580	3700	2196	2612	2697	2502	2068	1697	1956	1846	1889	1644	2735	2587	2325	1836	1803	3101	2595	3671	7008
種数		24	29	22	31	27	23	20	20	20	19	20	20	21	22	26	29	29	28	29	29	26	29	53

ミサゴとトビ以外の猛禽類は平成29年度まで調査対象としていない。

次に、お台場海浜公園において確認個体数の多かった、カワウ、サギ類、カモ類、キョウジョシギ、カモメ類、オオバンの最大個体数の経年変化についてまとめた。

・カワウ

カワウの最大個体数の経年変化を図7.2-6に示した。本調査地のカワウについては、かつて浜離宮恩賜庭園にあった集団ねぐらを、平成8年12月6日に人為的に放棄させ、第六台場に誘致した経緯がある[12]。カワウは誘致から2か月後に繁殖を開始し、現在では第六台場と鳥の島で繁殖している。カワウの最大個体数は、平成9年度から令和2年度まで530～1,486羽で変動してきたが、令和3年度は1,820羽、令和5年度は過去最多の2,600羽に急増した。個体数増加に伴い営巣数も増加しており、令和5年度は直近の6年間で最も多い1,054巣が確認されている（図7.2-7）。営巣数が増えた要因として餌資源の変化が考えられるが、稚魚及び成魚調査結果との比較では関連を示唆する結果は得られていない。

カワウの営巣時期については、近年より早期に開始している可能性が指摘されているが[13]、調査回数が限られているため開始時期は特定できていない。1月の繁殖ステージを見ると、平成31年度は小さな巣内雛を2羽確認、令和2年度は雛の鳴き声のみ、令和3年度は雛の声が盛んに聞かれ、視認可能なほどに成長した巣内雛を多く確認、令和4年度からは成鳥に近いサイズまで成長した巣内雛が複数確認される等、繁殖時期が早まっていることが示唆された。繁殖を早めた要因は不明であるが、採食条件や気温等が関わっている可能性があり、今後も調査の際に留意する必要がある。

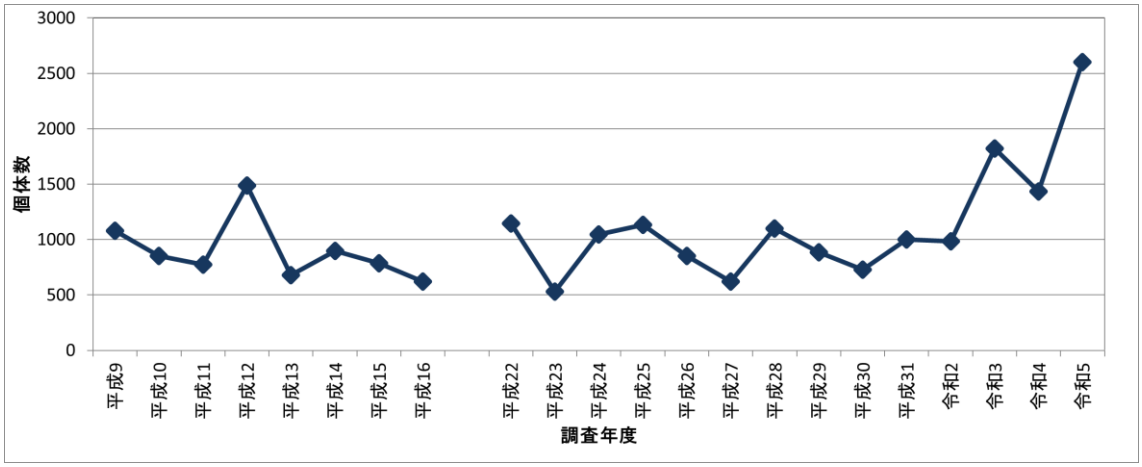
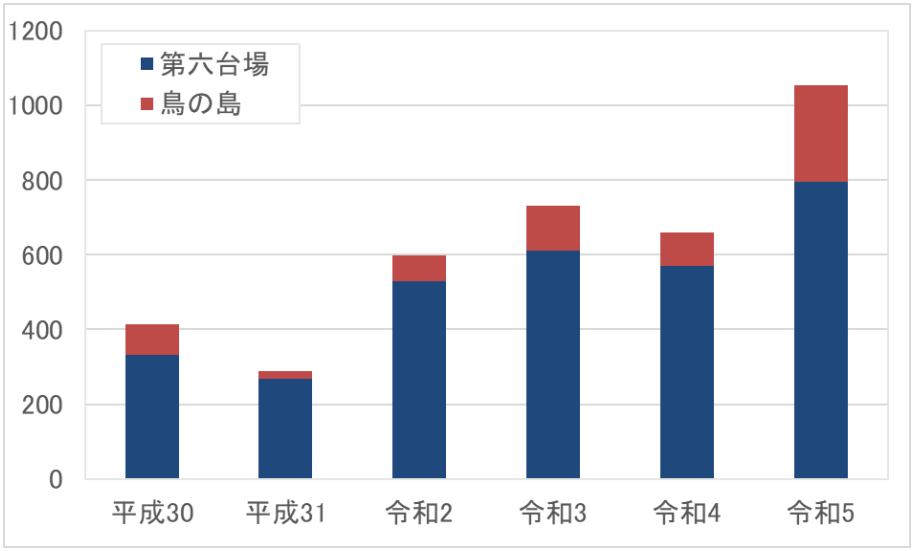


図7.2-6　カワウの最大個体数の経年変化

[12] 加藤ななえ，年不明．カワウのねぐら除去事例 －東京都浜離宮庭園－．
https://www.env.go.jp/nature/choju/effort/effort5/effort5-3a/kawa20121108.pdf
[13] 「令和３年度水生生物調査結果報告書」学識経験者ヒアリング

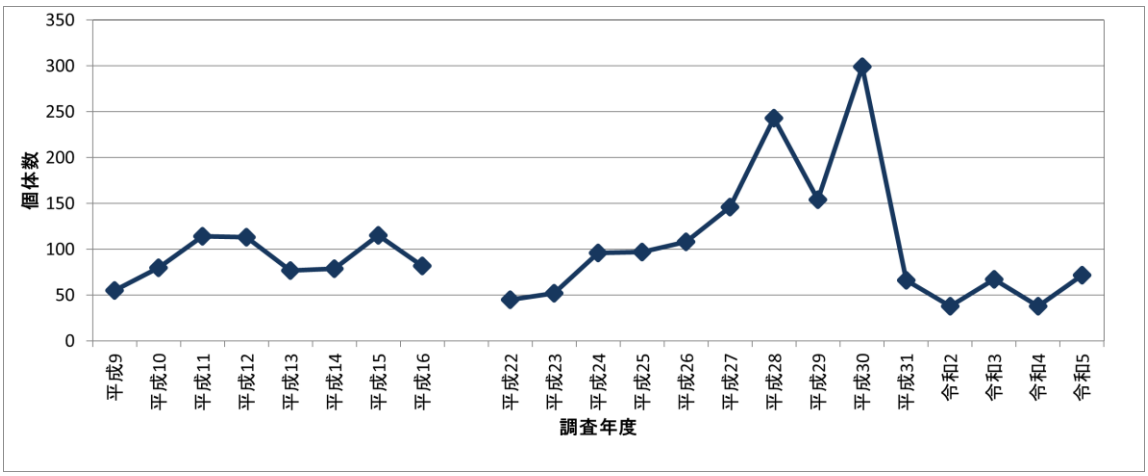


数値は利用中の巣数で、古巣は含まない

図7.2-7　カワウの営巣数の経年変化

・サギ類

サギ類の最大個体数の経年変化を図7.2-8に示した。サギ類の個体数は、平成30年度に過去最多の299羽を記録した後に急減し、平成31年度以降は38～72羽と少ない数で推移している。かつては第六台場で集団繁殖していたが、ゴイサギとダイサギは平成30年度、アオサギとコサギは平成31年度を最後に繁殖しなくなり、以後はアオサギで頭部に幼綿羽（サギ類やカモ類等の雛がふ化して最初に生える羽）を残す幼鳥が確認されることがあるものの、繁殖確認には至っていない。令和5年度は2月29日と遅い時期に実施したことから、アオサギの営巣状況の把握が期待されたが、巣や繁殖行動は見られなかった。サギ類の個体数が減少し、繁殖が見られなくなった原因は不明であるが、営巣地として利用していた第六台場南西部の笹藪が低木林に置き換わる等、植生に変化が見られている。



グラフには次の種が含まれる。
ゴイサギ、ササゴイ、アオサギ、ダイサギ、チュウサギ、コサギ、クロサギ

図7.2-8　サギ類の最大個体数の経年変化

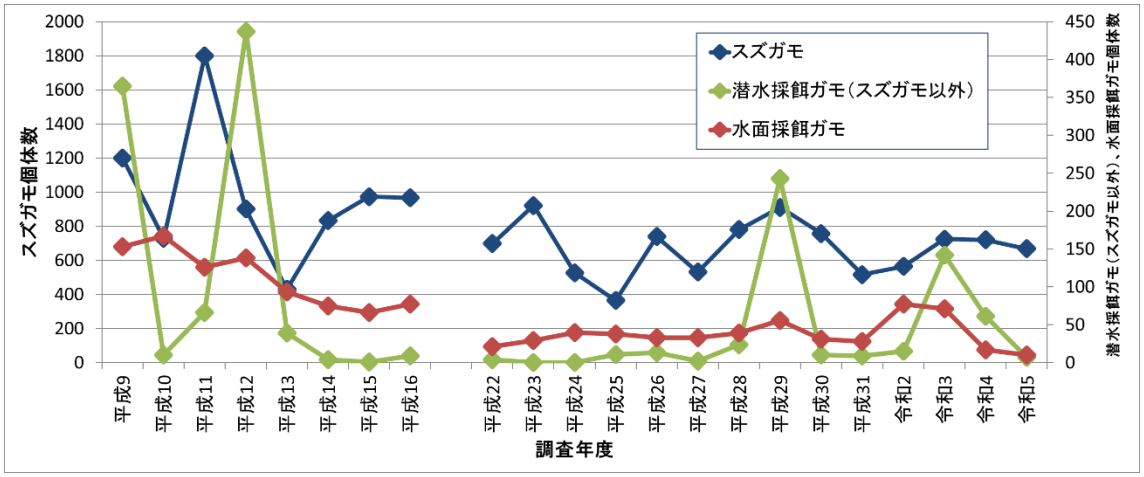
・カモ類

個体数の多いスズガモとそれ以外の潜水採餌ガモ（表7.2-9のNo.9、10、12～14の種）、水面採餌ガモ（表7.2-9のNo.1～8の種）に分けて集計し、最大個体数の経年変化を図7.2-9に示した。

スズガモの最大個体数は年度によって変動が大きく、最も多かったのは平成11年度の1,800羽で、以後は1,000羽未満で推移している。令和5年度は668羽で大きな増減は見られない。

スズガモ以外の潜水採餌ガモは、平成9年度の365羽、平成12年度の437羽、平成29年度の243羽、令和3年度の142羽が突出して多かったが、それ以外は数十羽で推移している。平成9年度と12年度はキンクロハジロ、平成29年度と令和3年度はホシハジロの個体数が多く、優占種は年代によって異なっていた。令和5年度は大きく減少し、ホシハジロ1羽とウミアイサ6羽の2種7羽である。

水面採餌ガモの個体数は調査開始当初に多く、平成10年度の167羽をピークに以後は減少したまま推移している。水面採餌ガモ類の減少は主にオナガガモの減少が影響している。令和5年度はヒドリガモ3羽とカルガモ7羽の計10羽で、過去最も少ない個体数となった。



各グラフには次の種が含まれる。
スズガモ：スズガモ１種のみ
潜水採餌ガモ（スズガモ以外）：ホシハジロ、キンクロハジロ、ホオジロガモ、ミコアイサ、ウミアイサ
水面採餌ガモ：オカヨシガモ、ヒドリガモ、マガモ、カルガモ、カルガモ雑種、ハシビロガモ、オナガガモ、シマアジ、コガモ

図7.2-9　カモ類の最大個体数の経年変化

・キョウジョシギ

キョウジョシギの最大個体数の経年変化を図7.2-10に示した。個体数は平成10年度に185羽が記録された後に減少し、平成30年度に最大196羽を記録したが再び減少した。本種は、お台場海浜公園の岩礁や護岸、第六台場周辺で採餌・休息するが、増減の要因は不明である。令和5年度は比較的多く、5月に72羽を記録した。

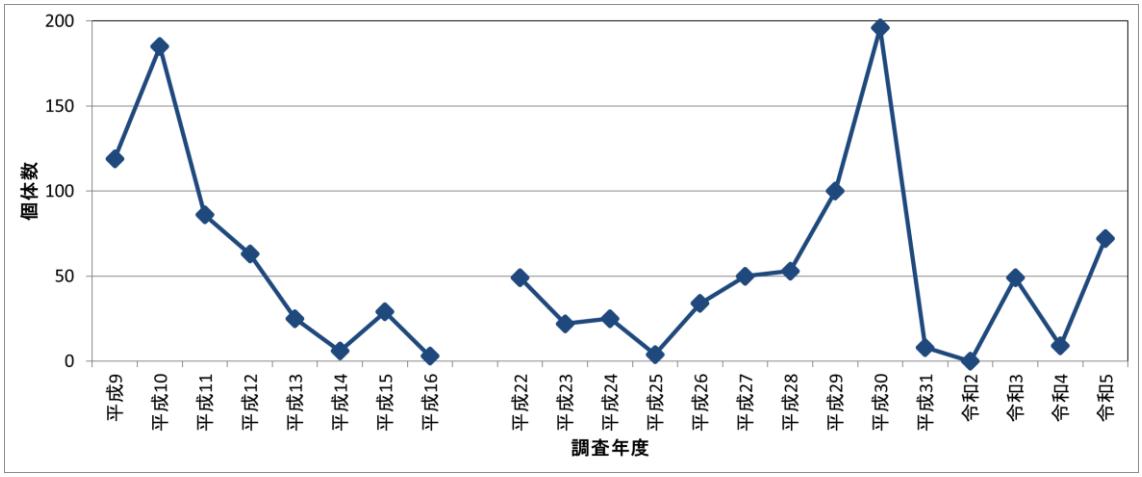


図7.2-10　キョウジョシギの最大個体数の経年変化

・カモメ類（ユリカモメ、ウミネコ）

ユリカモメとウミネコの最大個体数の経年変化を図7.2-11に示した。

ユリカモメの最大個体数は、平成9年度から平成16年度にかけて多く、371～683羽で推移した。平成22年度以降は、平成28年度に記録された386羽を除き、減少した状態で推移している。令和2年度に28羽まで減少したのは、東京オリンピック開催に伴い、お台場海浜公園への立ち入りが禁止され、人為的な給餌がなくなった影響と思われる。立入規制が解除された令和3年度以降は個体数が増加しており、令和5年度は108羽であった。

ウミネコの最大個体数は、平成10年度の126羽をピークに、以後は、おおむね数十羽で推移している。近年は目立った増減傾向が見られず、令和5年度は7羽であった。

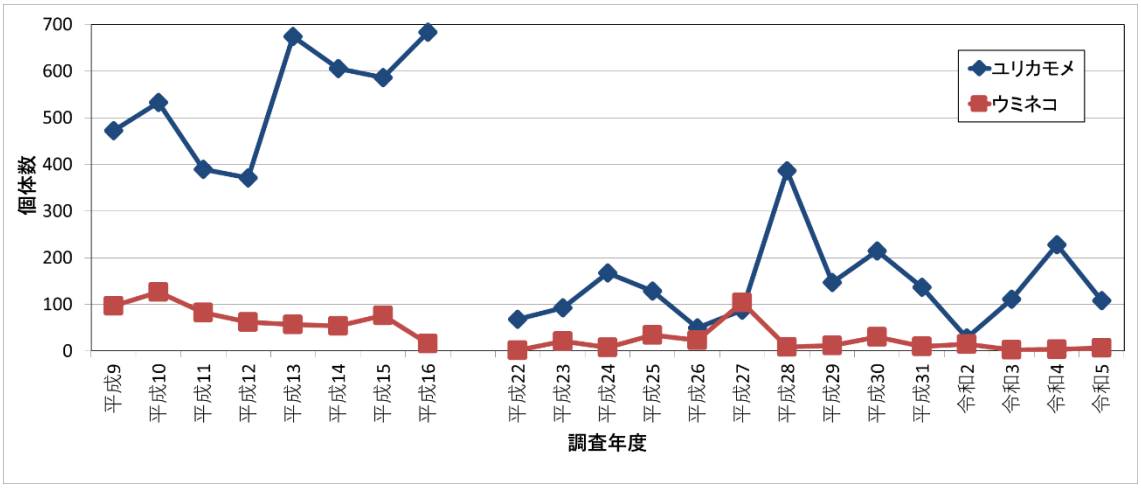


図7.2-11　カモメ類の最大個体数の経年変化

・オオバン

オオバンの最大個体数の経年変化を図7.2-12に示した。かつては生息していなかった鳥で、調査が行われなかった平成17年度から平成21年度までの間に渡来が始まったと考えられる。平成22年度からは毎年記録されるようになり、個体数は増加傾向にある。令和3年度に過去最多の35羽を記録した後、令和5年度はやや減少して30羽であった。オオバンの個体数増加は全国各地で見られているが、平成16年度から平成30年度までの記録を調べた結果からは、平成22年度に増加した調査地が多いことが指摘されており[14]、本調査の結果とも一致する。

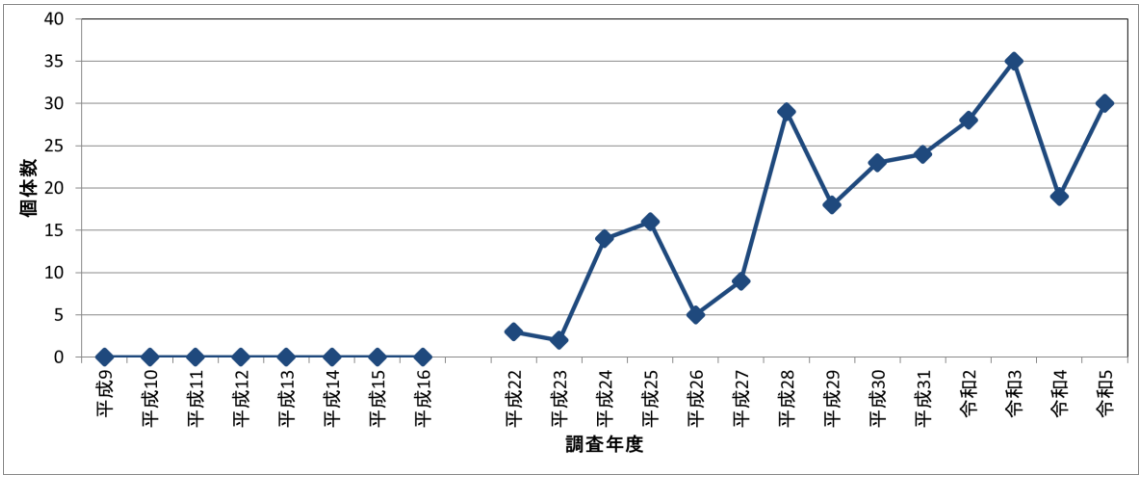


図7.2-12　オオバンの最大個体数の経年変化

[14] 「オオバンは全国的に増加、ところにより減少」https://db3.bird-research.jp/news/201807-no3/

（イ）森ヶ崎の鼻

森ヶ崎の鼻における、最大個体数と確認種数の経年変化を図7.2-13に、各年度の最大個体数を表7.2-10に示した。

最大個体数は、平成5年度の6,338羽をピークに減少し、平成6年度から平成13年度までは2,574～3,888羽、平成14年度以降は587～2,205羽で推移している。令和5年度は1,802羽が記録された。

確認種数は令和5年度にウミウとシロカモメの2種が加わり、71種となった。単年度の確認種数は平成22年度以降30～38種で推移し、目立った増減は見られない。令和5年度は35種であった。

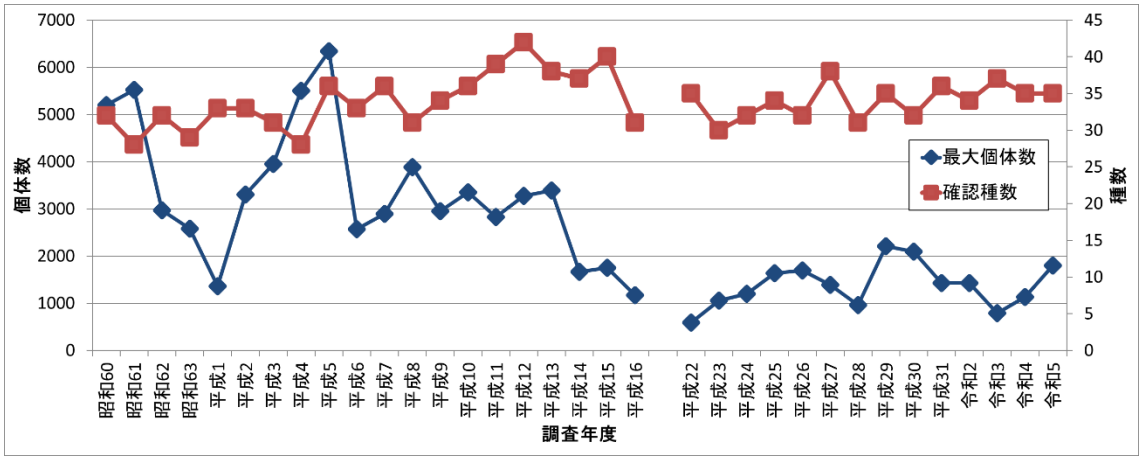


図7.2-13　森ヶ崎の鼻の最大個体数、確認種数の経年変化

表7.2-10　森ヶ崎の鼻の最大個体数の経年変化

No.	種名	調査年度																																		最大個体数
		昭和60	昭和61	昭和62	昭和63	平成1	平成2	平成3	平成4	平成5	平成6	平成7	平成8	平成9	平成10	平成11	平成12	平成13	平成14	平成15	平成16	平成22	平成23	平成24	平成25	平成26	平成27	平成28	平成29	平成30	平成31	令和2	令和3	令和4	令和5	
1	オカヨシガモ						1	1			8	27	20	6	29	22	28	1	1	5		4	1			7			7		3	6	5	11	17	29
2	ヨシガモ																																	1		1
3	ヒドリガモ							4			15	17	38	110	74	102	97	87	15	4	65	15	6	32	7	34	5	1	7	4	6		1	45	16	110
4	マガモ			2			4		11	39	20	27	16	21	38	30	31	21	16	12	12	13	13	15	21	15	10	12	14	10	25	8	5	9	4	39
5	カルガモ	136	136	59	36	10	55	30	39	199	67	51	43	56	41	40	49	55	19	25	30	33	25	43	51	46	26	27	14	20	14	10	6	8	20	199
6	ハシビロガモ	3	1	5		4	2			1		5		12	147	37	82	14				2	10	26	14	2	1		2	1	17	17	3	15	20	147
7	オナガガモ	1100	486	357	43	33	239	566	536	121	245	256	70	123	122	172	203	112	26	60	15	9	8	61	17	44	40	7	3	25	9	15	10	10	12	1100
8	コガモ		13					2				7	8	8	95	127	52	155	47	15	20	25	24	256	185	238	96	62	31	61	39	142	148	221	171	256
9	ホシハジロ	325	280	496	284	120	265	134	232	303	545	217	18	115	208	381	279	75	214	92	36	6	58	80	70	110	69	90	105	205	96	17	8	12	1	545
10	キンクロハジロ	102	114	148	142	100	185	324	449	205	152	70	34	95	46	55	340	22	28	8	8	19	21	46	25	29	9	3	20	38	25	22	10	10		449
11	スズガモ	44	1030	1	1		178	71	262	94	73	3	12	71	16	27	130		2	48	18						1	21			216	31				1030
12	クロガモ																1																			1
13	ホオジロガモ															1																				1
14	ウミアイサ																		6																	6
	カモsp.	131		219	400				485						2	1																				485
15	カイツブリ	2	5	5	5	1	4		5	3	2	1			2		1	1		1							1									5
16	アカエリカイツブリ																			2																2
17	カンムリカイツブリ					1				2					1	1	3	1		1			1	1	1	1	3	1	1		5	6	2	2	1	6
18	ハジロカイツブリ										1		2			3	18	8		6	5	3			1	1	9	1	2	1	1					18
19	コウノトリ																																	1		1
20	カワウ	18	37	76	166	100	50	324	107	77	168	61	73	175	144	160	172	143	185	128	207	56	465	49	766	579	289	95	1047	921	169	757	45	265	1099	1099
21	ウミウ																																		2	2
22	ゴイサギ	3		1																											2					3
23	ササゴイ																					1		1		1	1	2		1	1	2	1		1	2
24	アマサギ																												1							1
25	アオサギ	29	32	16	12	2	3	2	4	2	14	10	4	9	12	6	6	7	7	8	4	6	7	5	22	14	14	17	21	16	14	28	35	31	41	41
26	ダイサギ	2	2	7	9	7	7	9	8	7	13	15	13	14	14	21	7	2	3	1	3	7	9	6	9	9	6	19	16	8	11	19	16	17	44	44
27	チュウサギ						2				1																					1	1		2	2
28	コサギ	4	1	6	20	2	7	13	4	1	8	3	6	11	5	11	4	14	3	1	8	6	9	4	7	14	10	12	10	10	2	2	4	7	15	20
29	オオバン																				1	45	6	77	45	34	76	34	24	34	18	29	27	38	31	77
30	タゲリ																																2			2
31	ムナグロ	5	21	12	42	10	3	4	7	21	11	7		37	51	34	21	1	1	12		2	6		1		8			5	1	2				51
32	ダイゼン	2			1	8		1		6	1	1			1	15	7	34	58	1	21	1		25												58
33	コチドリ			3		1	2	9	8	2	1	1		1		3	6			2		3	3	1	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	3	9
34	シロチドリ	90	667	18	136	171	225	24	97	140	95	19	211	19	27	21	30	189	88	33	16	3	4	26	5	4	9	5	4	1	5	18	11		2	667
35	メダイチドリ	39	61	16	5	3	44	26	29	104	162	114	51	86	42	134	232	76	11	367	7	5	36	6	24	13	11		4		4		1	9		367
36	オオメダイチドリ																	1		1				1												1
	チドリsp.			38	340	159			60																											340
37	セイタカシギ																1																			1
38	オグロシギ	4		1	1	4	7	109		14		3			15		2																			109
39	オオソリハシシギ	17		24	2	8	1	92	27	40	9		17	10	17	6	11	1	4	7																92
40	チュウシャクシギ		1					1		2		5		2		8	4	3	3	5	3		1	3	1	2	2	2	11	2		11	3	1	2	11
41	アオアシシギ	7		11	5	6	2	27	5	11	33	7	27	7	8	11	4	6	1	13		1					2									33
42	キアシシギ	61	75	24	11	56	41	109	121	117	82	18	95	57	40	21	11	120	33	17	8	2	2	2	1	5	3	5	1	4	4	6	2	1	2	121
43	ソリハシシギ	2	20	1	7	2	2			8	3	3		1	8	11	2		6	6	1	2			5		4									20
44	イソシギ				1	1			1	1	2	3	2	1	3	3	7	11	3	3	1	3	1	2	4	6	5	4	4	6	5	5	6	9	6	11
45	キョウジョシギ	29	85	82	11	37	117	129	44	120	19	12	249	17	8	19	47	28	31	10	18	9	14	14	1	35	30	73	13	41	14		22	3	11	249
46	オバシギ									2										1																2
47	トウネン	2000	1	143		6	81	9	16	379	61	244	7	94	146	4	68	121	19	9	16	26		1	1											2000
48	ハマシギ	597	1500	154	19	24	507	922	6	6		11	305	63	72	31	363	95	61	127	269								1							1500
49	キリアイ	2																2																		2
	シギsp.		181		6		300		124	42																										300
50	ユリカモメ	127	285	581	447	255	420	249	2248	4000	340	1239	2005	1408	1600	579	581	1060	453	500	226	42	27	246	178	6	316	83	450	331	46	31	288	91	35	4000
51	ワライカモメ																		1																	1
52	ウミネコ	171	423	315	288	101	320	437	149	55	126	160	72	116	128	116	57	175	38	25	94	143	75	84	112	97	70	203	57	123	254	144	81	87	200	437
53	カモメ	92	2	10		2	3		8	4	13	110	19	4	6	5	7	80	3						1		3		7							110
54	シロカモメ																																		1	1
55	セグロカモメ	11	19	17	64	37	18	15	281	94	55	77	86	59	117	200	85	90	43	54	15	3	1	17	36	18	18	7	6	20	8	13	17	35	11	281
56	オオセグロカモメ					1				1		3	1	5	3	59	10	40	3	1	2	5	8	1	2	5	5	2	2	5	4	3	3	4	3	59
	大型カモメ																21										1	7		2						21
57	コアジサシ	32	40	47	70	78	186	251	130	114	227	81	380	140	62	350	192	522	221	134	35	82	213	66	13	310	224	152	310	186	395	57	2	161	3	522
58	アジサシ	7	7	78	6	6	2	53	1				2			1	1	11				2							3							78
59	クロハラアジサシ																		1																	1
60	ハジロクロハラアジサシ																										2					1				2
	アジサシsp.						15																													15
61	ミサゴ				1															1		2	1	1	1	2	1	1	1		1	3	2	3	2	3
62	トビ																								4		1		1	1	2	5	2	7	1	7
63	ハイタカ																																1	1		1
64	オオタカ																													1					1	1
65	ノスリ																																1			1
66	カワセミ																											1			1			1		1
67	チョウゲンボウ																													1		1				1
68	ハヤブサ																																1	1	1	1
69	ハクセキレイ	1		1	2	4	2	2		1	2	5	2	1	2	2	2	3	3	2	3	1	2	5	4	5	4	7	3	10	10	8	9	11	18	18
70	セグロセキレイ		1																																	1
71	タヒバリ																		8		1					2		1		2	3	4	2	1	3	8
	最大個体数の合計	5195	5526	2974	2583	1360	3300	3949	5504	6338	2574	2893	3888	2954	3352	2830	3275	3387	1665	1748	1168	587	1057	1203	1637	1690	1387	959	2205	2098	1432	1426	785	1131	1802	17238
	種数	32	28	32	29	33	33	31	28	36	33	36	31	34	36	39	42	38	37	40	31	35	30	32	34	32	38	31	35	32	36	34	37	35	35	71

以下に、森ヶ崎の鼻において個体数の多かった、カモ類、シギ・チドリ類、オオバン、カモメ類、コアジサシの最大個体数の経年変化についてまとめた。

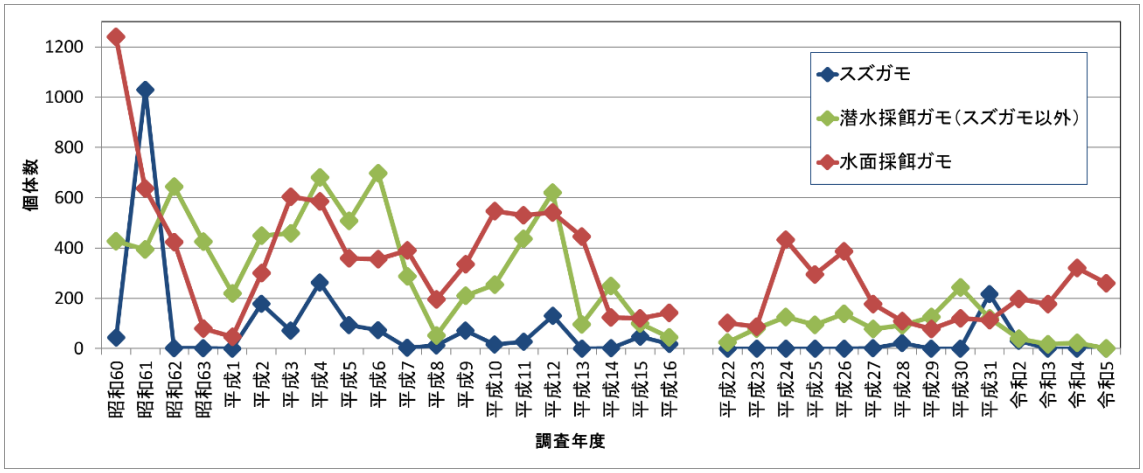
・カモ類

個体数の多いスズガモとそれ以外の潜水採餌ガモ（表7.2-10のNo.9、10、12～14の種）、水面採餌ガモ(表7.2-10のNo.1～8の種)に分けて集計し、最大個体数の経年変化を図7.2-14に示した。

スズガモの最大個体数は、昭和61年度の1,030羽が突出して多く、以後は平成12年度にかけて0～262羽で推移した。平成13年度からは渡来が不定期となり、令和3年度以降は記録がない。

スズガモ以外の潜水採餌ガモの最大個体数は増減が大きく、昭和60年度から平成12年度までは多い年で600羽以上を記録していた。平成13年度以降は減少し、多い年でも248羽となっている。近年は減少が顕著で、令和5年度はホシハジロ1羽のみであった。

水面採餌ガモの最大個体数は、昭和60年度の1,239羽が最も多く、平成元年度にかけて大きく減少した。この減少は、オナガガモとカルガモの影響が大きい。その後、ヒドリガモの増加により平成13年度までは600羽以上を記録する年もあったが、平成14年度以降は再び減少して100～400羽程度で推移している。平成24年度以降はコガモが水面採餌ガモの最優占種であり、令和5年度は260羽のうち171羽を占めている。



各グラフには次の種が含まれる。
スズガモ：スズガモ１種のみ
潜水採餌ガモ（スズガモ以外）：ホシハジロ、キンクロハジロ、クロガモ、ホオジロガモ、ウミアイサ
水面採餌ガモ：オカヨシガモ、ヨシガモ、ヒドリガモ、マガモ、カルガモ、ハシビロガモ、オナガガモ、コガモ

図7.2-14　カモ類の最大個体数の経年変化

・シギ・チドリ類

シギ・チドリ類の最大個体数の経年変化を図7.2-15に示した。最大個体数は調査が始まった昭和60年度が2,855羽で最も多く、昭和61年度にも2,612羽が記録されたが、昭和62年度からは急減した。平成2年度から平成16年度にかけては、ゆるやかな減少傾向が見られ、平成22年度以降は25～91羽で推移している。令和4年度は最も少ない25羽、令和5年度は26羽と低い水準で推移した。かつて1,000羽以上飛来していたハマシギとトウネン、100羽以上記録されていたシロチドリ、メダイチドリ、オグロシギ、キアシシギ、キョウジョシギは近年では減少、あるいは稀になった。一方で、コチドリ、イソシギ、チュウシャクシギには大きな変化が見られていない。

シギ・チドリ類の渡来時期を、春の渡り期（5月、6月）と秋の渡り期（8月、9月）に分け、最大個体数の経年変化を図7.2-16に示した。森ヶ崎の鼻では春季と秋季に毎年シギ・チドリ類が確認されているが、春季の減少が著しい。平成22年度以降は春季が12～90羽、秋季が2～58羽で変動しており、下げ止まりの状態が続いている。

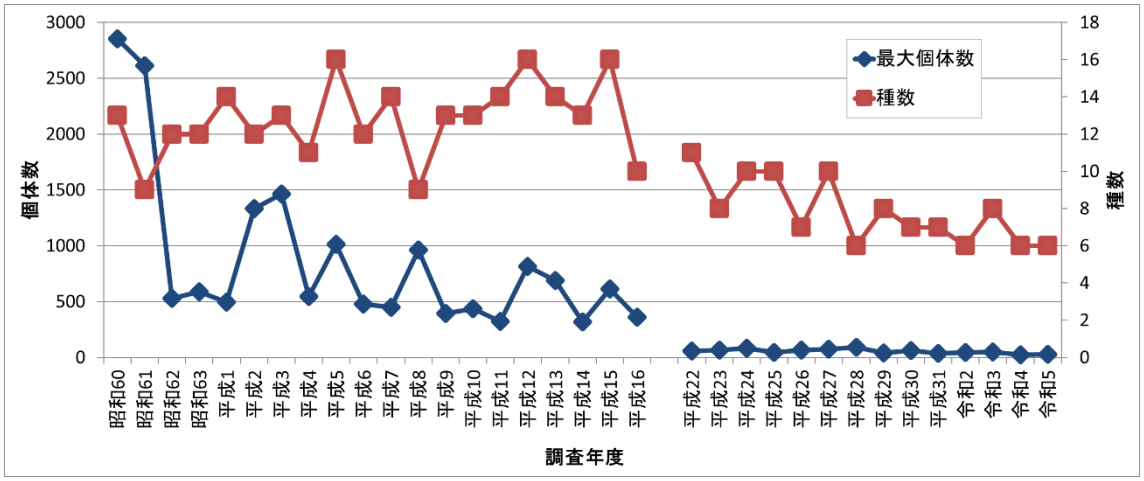
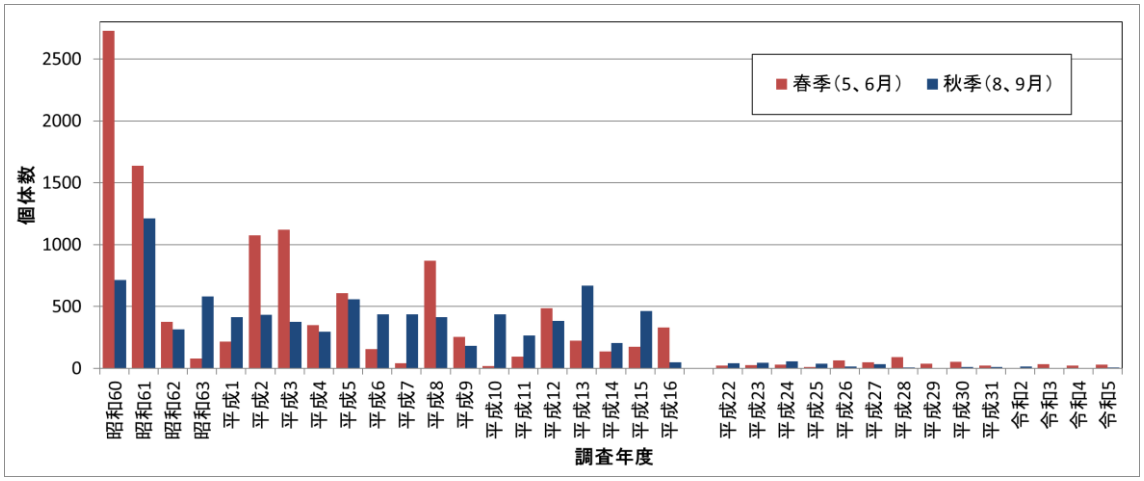


図7.2-15　シギ・チドリ類の最大個体数と種数の経年変化



注）令和２年度は春季調査を実施していない。令和３年度は６月、８月の調査を実施していない。

図7.2-16　シギ・チドリ類の春（5月、6月）と秋（8月、9月）の渡り期の最大個体数

・オオバン

オオバンの最大個体数の経年変化を図7.2-17に示した。昭和60年度から平成15年度までの記録はなく、平成16年度に初めて1羽が確認された。調査が実施されなかった平成17年度から平成21年度の間に渡来が始まったと考えられ、時期的には、お台場海浜公園と同様である。平成28年度以降は個体数がやや減少し、18～38羽で推移している。令和5年度は31羽であった。

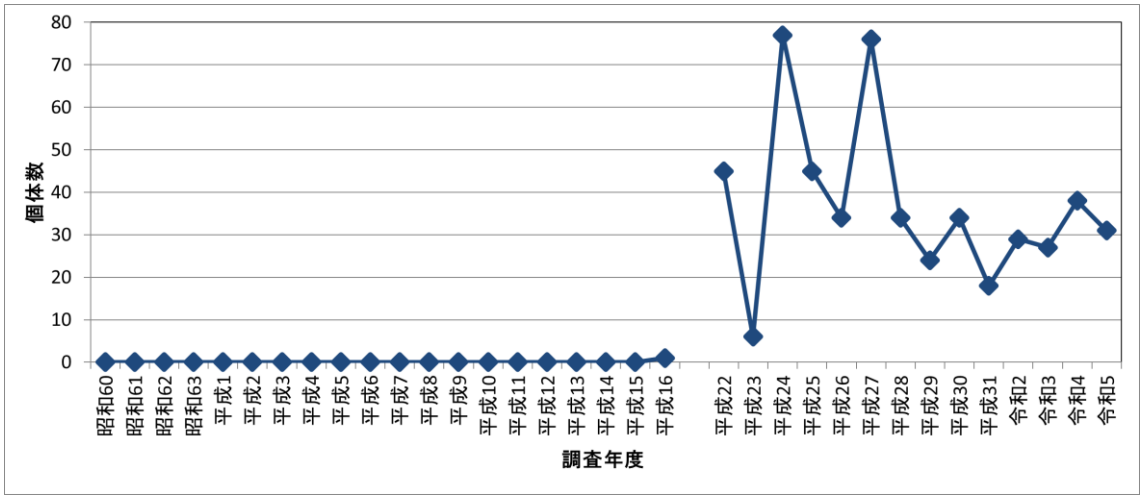


図7.2-17　オオバンの最大個体数の経年変化

・カモメ類（ユリカモメ、ウミネコ）

ユリカモメとウミネコの最大個体数の経年変化を図7.2-18に示した。カモメ類の個体数は増減の変化が大きい。

ユリカモメの最大個体数は、昭和60年度から平成3年度まで127～581羽で推移した後、急増して平成4年度に2,248羽、平成5年度に最大4,000羽を記録した。平成6年度は減少し、平成7年度から平成13年度までは579～2005羽、平成14年度以降は500羽以下で推移している。令和5年度は35羽であった。

ウミネコは昭和61年度に423羽、平成3年度に最大437羽を記録した後、平成4年度以降は25～254羽で推移している。令和5年度は200羽が記録された。

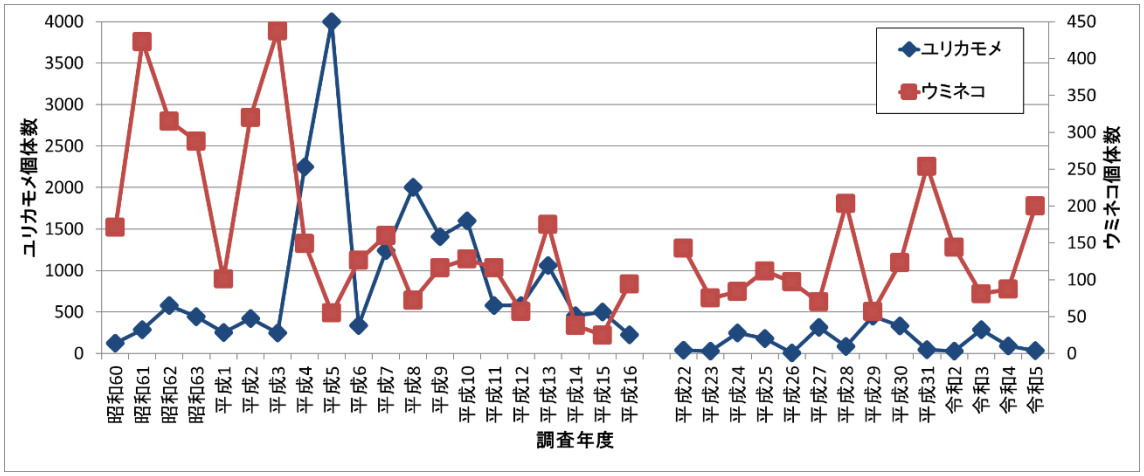


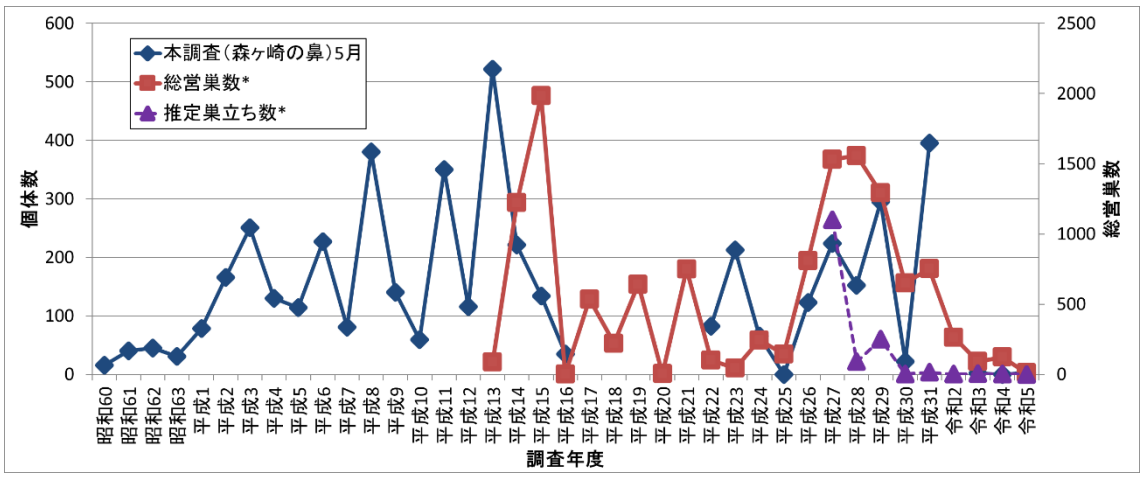
図7.2-18　カモメ類の最大個体数の経年変化

・コアジサシ

森ヶ崎の鼻で5月に観察されたコアジサシの個体数、森ヶ崎水再生センター屋上における、コアジサシ営巣数、幼鳥の推定巣立ち数の経年変化を図7.2-19に示した。5月の個体数データを使用したのは成鳥の個体数を比較するためで、6月以降になると早めに巣立った幼鳥が混ざってしまう可能性がある。

森ヶ崎の鼻はコアジサシの営巣地である森ヶ崎水再生センターに隣接し、採餌場や休息場として利用されている。5月におけるコアジサシの最大個体数は昭和60年度から徐々に増え、平成3年度以降は増減を繰り返しながら平成13年度に最多の522羽となり、その後は平成16年度にかけて減少した。南関東（千葉県太平洋側、東京湾奥部）全域において、平成13年度以降、コアジサシの個体数の減少が指摘されている[15]。本調査の結果からは平成22年度以降、コアジサシの最大個体数は変動しながらも増加し、平成31年度は過去2番目に多い395羽を記録した。令和2年度は5月調査を実施していないため欠測であるが、以後は令和3年度に2羽、令和4年度に0羽、令和5年度に3羽と、非常に少ない状況が続いている。

森ヶ崎水再生センター屋上の人工営巣地は安定した営巣地というわけではなく、攪乱要因も多い。カラス類やチョウゲンボウによる捕食のほか、ノネコ等哺乳類が侵入する可能性があり、年度によっては捕食圧が巣立ち数に大きな影響を与える。実際、令和4年度はカラス類による卵の捕食、チョウゲンボウによる雛の捕食があったほか、センサーカメラによる調査でハクビシンやアライグマの侵入が確認されている[16]。令和5年度は成鳥が最大24羽、繁殖成績は営巣数が12巣に対して推定ふ化数は0羽であった[17]。



*総営巣数と推定巣立ち数は NPO 法人リトルターンプロジェクトが行った調査結果を同団体のブログから引用した
平成 17 年度から平成 22 年度、令和 2 年度は調査を実施していない

図7.2-19　コアジサシの5月の個体数と人工営巣地での総営巣数の経年変化

[15] 奴賀俊光・北村亘・早川雅晴. 2016. 南関東のコアジサシの動向と営巣地における保全対策. 日本鳥学会 2016 年度大会講演要旨集: 202.
[16] 「2022 年　営巣調査結果まとめ」https://littletern.hatenablog.com/entry/2022/10/11/224406
[17] 「2023 年、11 年ぶりコアジサシ巣立ち 0 羽」https://littletern.hatenablog.com/entry/2023/08/13/151438

(ウ)葛西人工渚（東なぎさ）

葛西人工渚における、最大個体数と確認種数の経年変化を図7.2-20に、各年度の最大個体数を表7.2-11(1)、(2)に示した。

最大個体数は、昭和60年度から平成16年度にかけて変動はあるものの、増加傾向が見られた。最も多かったのは平成4年度の38,025羽であった。平成22年度以降は年度による変動が大きく、増減の傾向は認められない。令和5年度はスズガモ、カンムリカイツブリ、カワウ、ウミネコの群れが確認されたことで11,233羽が記録された。

確認種は沖合でトウゾクカモメが記録されたものの、範囲内で新たな追加種はなく、86種である。単年度の確認種数は増加傾向にあり、昭和60年度から平成4年度までが10種前後、平成5年度から平成10年度までが14～27種、平成11年度以降は31～54種前後で推移している。令和5年度は49種であった。

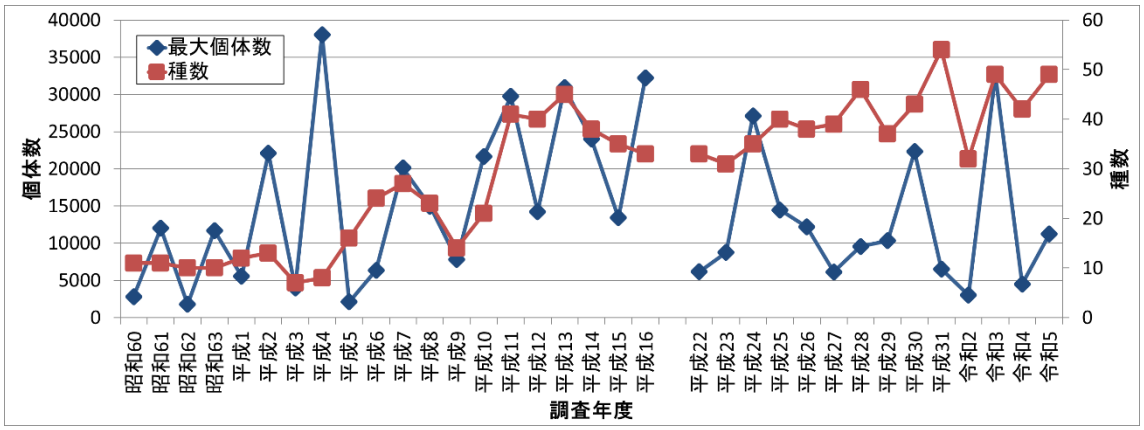


図7.2-20　葛西人工渚の最大個体数、確認種数の経年変化

表7.2-11(1)　葛西人工渚の最大個体数の経年変化

No.	種名	調査年度																	
		昭和60	昭和61	昭和62	昭和63	平成1	平成2	平成3	平成4	平成5	平成6	平成7	平成8	平成9	平成10	平成11	平成12	平成13	平成14	平成15	平成16
1	オカヨシガモ									2											
2	ヒドリガモ					15	7			8		32	16			6	2				
3	マガモ											2	18			29	2	3	2		
4	カルガモ	5	20		5	10	3			7	20	7	2	8	2	75	118	98	17	14	26
5	ハシビロガモ															4	1				
6	オナガガモ			14		55	1						3			15			58		3
7	トモエガモ																				
8	コガモ																				
9	ホシハジロ		1						2			60		14		1	25		1		
10	キンクロハジロ						3									1					
11	スズガモ	20	491	139	10000	4000	20000	2300	35000	30	170	11030	8000	5000	13000	12000	6500	21800	11230	6440	18697
12	クロガモ																				
13	ホオジロガモ												2								
14	ウミアイサ																				
	カモsp.	257		114																	
15	カイツブリ							9										1			
16	アカエリカイツブリ																		3		
17	カンムリカイツブリ						4			1	1	4000	3300	258	3000	6000	2700	3500	3315	3546	3809
18	ミミカイツブリ						1	1													
19	ハジロカイツブリ						14		33	243	21		72	52	137	300	6	23	28		20
20	アビ																				
21	カワウ	600	400	470	195	800	500	1100	2022	1450	2200	2490	900	343	3500	4000	3000	1350	3636	978	2100
22	ウミウ																				
23	ヨシゴイ																				
24	ゴイサギ																	2			
25	アマサギ																				
26	アオサギ	3	4	13	9	11	1			9	4	10	18	5	26	69	42	32	30	15	34
27	ダイサギ	5	20	5	12	14	12		2	7	36	45	16	15	12	44	21	12	22	17	16
28	チュウサギ																	8		1	
29	コサギ	2	3	2	18	27	2				12	11	2	2	15	21	18	15	13	9	19
30	カラシラサギ																				
	サギsp.			1		1															
31	ヘラサギ																	1			
32	クロツラヘラサギ															1		1		2	
33	クイナ																	2			
34	ヒクイナ																				
35	バン															3	1	6	1	1	6
36	オオバン																				
37	ケリ																				
38	ムナグロ															1		96	1		
39	ダイゼン											4			3	4	19	14	44	4	13
40	イカルチドリ																3				
41	コチドリ															1	2	2			
42	シロチドリ										61	16	2		2	118	59	430	63	72	130
43	メダイチドリ										3	9	1		17	77	95	51	9	1	3
	チドリsp.				20																
44	ミヤコドリ															5	18	3	3	3	8
45	セイタカシギ										1					2	7	4		2	3
46	タシギ																				
47	オグロシギ																	2			
48	オオソリハシシギ												1			2	1	9		3	31
49	チュウシャクシギ									27	7	60	23		17	8	12	13	8	5	3
50	ダイシャクシギ									1	2				1	2	2	12		1	1
51	ホウロクシギ										5	1	1			1	2	2	1	2	2
52	アカアシシギ																	2		4	
53	コアオアシシギ																1				
54	アオアシシギ										4					8	3	6	7	6	5
55	クサシギ																				
56	キアシシギ										2	5	1			27	12	160	19	11	8
57	ソリハシシギ															12	11	12	2	1	
58	イソシギ										1	2				5	7	7		1	
59	キョウジョシギ										12	7			7	2		50	1	8	3
60	オバシギ																2		1		
61	コオバシギ																		1		
62	ミユビシギ																		6		
63	トウネン											35					18	23	10	22	13
64	サルハマシギ																				
65	ハマシギ	800								60	16	23	705	250	26	377	225	785	341	663	537
66	キリアイ																				
	シギsp.			25		50					5		50	200							
67	ユリカモメ	15	565					193	500	2	1930	1500	1160		129	713	266	6	15	243	39
68	ズグロカモメ																				1
69	ウミネコ	430	500	640	1000	300	327	280	25	223	93	275	550	1560	1204	2257	800	1450	3520	480	4838
70	カモメ											43				13		8			
71	セグロカモメ	1	10000	3	60	5		58	441	3	1200	235	30	65	90	73	21	95	62	82	81
72	オオセグロカモメ											10		9	5	263	42	12	13	9	1
	小型カモメ																				
	大型カモメ																				
	カモメsp.	44		249	300	62	1200	70													
73	オニアジサシ																				
74	コアジサシ	600	5	2	2	50				45	554	46	96	30	346	1200	92	145	778	700	258
75	アジサシ			2	19	150					2	174			117	2000	70	656	772	76	1500
76	クロハラアジサシ																				
77	ハジロクロハラアジサシ																				
	アジサシsp.	30		100	70																
78	ミサゴ																1	1	1	1	1
79	トビ																				
80	チュウヒ																				
81	オオタカ																				
82	ノスリ																				
83	カワセミ																				
84	ハヤブサ																				
85	ハクセキレイ															4	1	1	1	2	2
86	タヒバリ																		2		
最大個体数の合計		2812	12009	1779	11710	5550	22075	4011	38025	2118	6362	20132	14969	7811	21656	29744	14228	30911	24037	13425	32211
種数		11	11	10	10	12	13	7	8	16	24	27	23	14	21	41	40	45	38	35	33

ミサゴとトビ以外の猛禽類は平成29年度まで調査対象としていない。

表7.2-11(2)　葛西人工渚の最大個体数の経年変化

No.	種名	調査年度														最大個体数
		平成22	平成23	平成24	平成25	平成26	平成27	平成28	平成29	平成30	平成31	令和2	令和3	令和4	令和5	
1	オカヨシガモ			2					3		2					3
2	ヒドリガモ			7				4		2	5		11		1	32
3	マガモ				4		3	3				1		1	7	29
4	カルガモ	3	20	15	17	19	6	10	13	8	13	14		19	3	118
5	ハシビロガモ															4
6	オナガガモ			3	3		16	3								58
7	トモエガモ													9		9
8	コガモ									8	5	6	1		11	11
9	ホシハジロ				63				5		3		5			63
10	キンクロハジロ								1							3
11	スズガモ	2127	3700	22638	11130	6964	1971	3392	6727	15360	2023	2	26220	35	2795	35000
12	クロガモ										5		1		1	5
13	ホオジロガモ										1		1	2		2
14	ウミアイサ				1	4		2	2		1		1	2	1	4
	カモsp.															257
15	カイツブリ			1												9
16	アカエリカイツブリ														1	3
17	カンムリカイツブリ	141	200	552	653	1327	332	2810	1182	2512	145		3460	88	4067	6000
18	ミミカイツブリ															1
19	ハジロカイツブリ				36	2		40	5	1	2		1	29	6	300
20	アビ										1					1
21	カワウ	965	1739	2157	607	1598	1209	1236	697	1764	1477	1493	1486	2300	2627	4000
22	ウミウ										1		2	4	5	5
23	ヨシゴイ					1						3				3
24	ゴイサギ															2
25	アマサギ						1		2							2
26	アオサギ	19	27	24	33	16	51	28	32	27	38	24	36	90	21	90
27	ダイサギ	25	31	20	43	33	72	25	60	35	47	25	46	78	37	78
28	チュウサギ				3					1	3	1	3	2		8
29	コサギ	9	29	23	7	48	27	16	36	16	16	13	23	29	19	48
30	カラシラサギ						1									1
	サギsp.															1
31	ヘラサギ						1	1					1			1
32	クロツラヘラサギ			1		1	1	1		1	1	2	2	4	5	5
33	クイナ	2								1	1		1		1	2
34	ヒクイナ											2	1	3	1	3
35	バン				1	2	1	1	1	1						6
36	オオバン						1	2					38			38
37	ケリ											1				1
38	ムナグロ		2	4	5			4	2				4			96
39	ダイゼン	2	1	1	2	2	1	2			2		1		1	44
40	イカルチドリ															3
41	コチドリ				1	3		3	1	1	2	6		1	1	6
42	シロチドリ	55	30	20	29	28	37	68	30	31	54	46	25	32	46	430
43	メダイチドリ	8	11	7	5	2	28	4	4	5	3					95
	チドリsp.															20
44	ミヤコドリ	42	37	21	26	40	33	43	10	34	25		25	20	32	43
45	セイタカシギ										1					7
46	タシギ					1				1	2	3	4	2	2	4
47	オグロシギ															2
48	オオソリハシシギ	1	2	3	1	2	1				1		1	1	2	31
49	チュウシャクシギ	6	3	2	2	5	3	2	4	9	3	1	11	18	18	60
50	ダイシャクシギ	1	1	2	1	3	1	2	2	4	1	3	2	2	1	12
51	ホウロクシギ	1	1	1	1	1	2	1	2	1	2		2	1	1	5
52	アカアシシギ															4
53	コアオアシシギ	5									2		2			5
54	アオアシシギ	2	4	2	3	7	3	7	2	18	15	1	18	9	3	18
55	クサシギ									1						1
56	キアシシギ	3	7	4	1	10	16	7	6	8	23		17	23	15	160
57	ソリハシシギ	1	3			1		3		5	3	2	1	1	2	12
58	イソシギ	2	4	1	1	2	1	2	1	2	4	2	2	2	6	7
59	キョウジョシギ	2	1	3			1	22		8	9		5	13	15	50
60	オバシギ	5				19		6								19
61	コオバシギ															1
62	ミユビシギ							7	5	28	3				2	28
63	トウネン	5	90	1	1	47	16	15	11	1	1	3			9	90
64	サルハマシギ				1											1
65	ハマシギ	286	326	109	94	179	16	359	65	92	322	269	168	18	100	800
66	キリアイ							1								1
	シギsp.															200
67	ユリカモメ	1524	80	47	148	8	42	727	5	84	75	99	6	440	20	1930
68	ズグロカモメ				1		1	1	1		2				2	2
69	ウミネコ	722	1800	1319	1010	1500	2180	580	1335	1975	1853	907	483	819	1223	4838
70	カモメ				16	10			3	6	6			3	1	43
71	セグロカモメ			56	36	17	6	9		20	227	2	17	51	14	10000
72	オオセグロカモメ	72	49	6	40	51	39	8	58	78	102	67	126	180	91	263
	小型カモメ				1											1
	大型カモメ				11		2	11	3							11
	カモメsp.															1200
73	オニアジサシ										1					1
74	コアジサシ	49	68	32	42	8	22	15	10	158			85	123	3	1200
75	アジサシ	84	474	8	378	219	1	81		2			229	45		2000
76	クロハラアジサシ		1													1
77	ハジロクロハラアジサシ		3													3
	アジサシsp.															100
78	ミサゴ	1	1	2	1	1	1	2	1	3	1	2	1	1	2	3
79	トビ						1		1	3	2	5	4	2	4	5
80	チュウヒ												1		1	1
81	オオタカ										1					1
82	ノスリ									1	1		1	1		1
83	カワセミ							1			1	1			1	1
84	ハヤブサ												1		1	1
85	ハクセキレイ	1		1	1	2	2	3	2	1	4	2	1	2	1	4
86	タヒバリ	1						2		2	2	1	1	1	4	4
最大個体数の合計		6172	8745	27095	14460	12183	6149	9572	10330	22319	6546	3009	32584	4506	11233	70075
種数		33	31	35	40	38	39	46	37	43	54	32	49	42	49	86

次に、葛西人工渚において確認個体数の多かったカモ類、カンムリカイツブリ、シギ・チドリ類、カモメ類、コアジサシの最大個体数の経年変化についてまとめた。

本調査の結果と比較するため、カモ類、カンムリカイツブリ、シギ・チドリ類については、環境省モニタリングサイト1000（以下、モニ1000）ガンカモ類調査データ（平成16年度から令和3年度までの12月及び1月の最大個体数）及びシギ・チドリ類調査データ（平成16年度から令和3年度までにおける各年度の最大個体数）の葛西臨海公園の記録を併せて利用した。ただし、モニ1000の調査範囲は、ガンカモ類調査では葛西臨海公園及び葛西海浜公園西なぎさ・東なぎさ・沖合海上であり、シギ・チドリ類調査では葛西臨海公園鳥類園付近の海岸部及び汽水池、葛西海浜公園東なぎさ、沖合海上である[18, 19]。いずれも本調査とは異なり、より広い範囲を対象としていることに注意を要する。

・カモ類

個体数の多いスズガモとそれ以外の潜水採餌ガモ（表7.2-11のNo.9、10、12～14の種）、水面採餌ガモ（表7.2-11のNo.1～8の種）に分けて集計した。本調査とモニ1000ガンカモ調査から得られたスズガモの最大個体数の経年変化を図7.2-21に、スズガモ以外の潜水採餌ガモの最大個体数の経年変化を図7.2-22に、水面採餌ガモの最大個体数の経年変化を図7.2-23に示した。

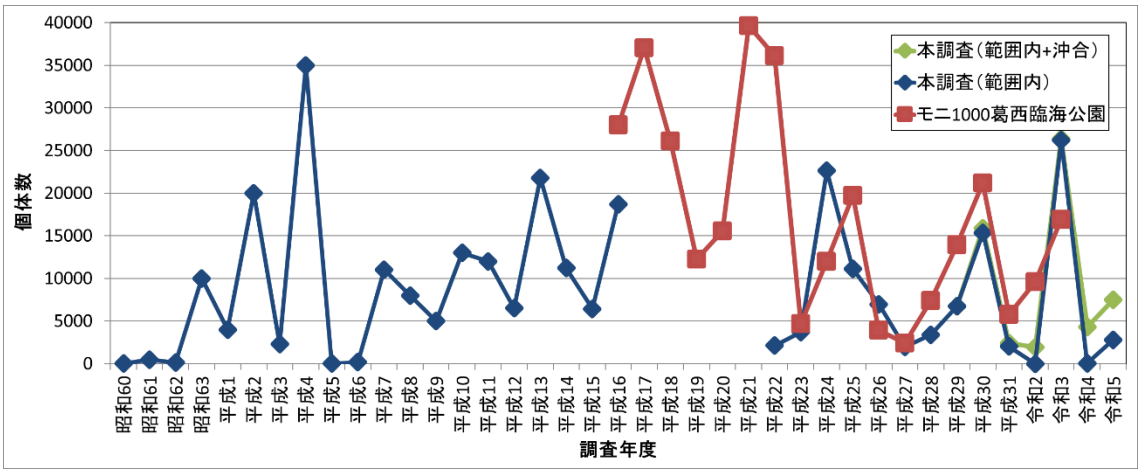
本調査でスズガモは毎年度確認されているが、個体数は年度ごとに変動が激しく、15,000羽を超える群れの出現頻度は数年に1回程度である。最も多かった平成4年度で35,000羽、最も少ない令和2年度は2羽であった。スズガモの群れは、葛西人工渚沖に分布しているため、群れの位置が調査範囲内の沿岸寄りか範囲外の沖合かで記録される個体数が大きく変化する。令和5年度は範囲内で2,795羽、沖合を含む最大数は7,484羽であった。モニ1000の結果と比較すると平成22年度のように両者の結果が著しく異なる年度もあるが、増減の傾向は、おおむね一致している。

スズガモ以外の潜水採餌ガモは本調査では少なく、平成26年度以降、0～10羽で推移しており令和5年度は2羽のみであった。モニ1000では、平成16年度の3,416羽からの減少が顕著で、令和3年度は3羽の記録しかない。特にホシハジロとキンクロハジロの2種が大きく減少している。

水面採餌ガモは本調査では平成22年度以降、3～29羽で推移しており、令和5年度は22羽で大きな変化はない。モニ1000では90羽以上で推移しており、本調査に比べ個体数が多い。

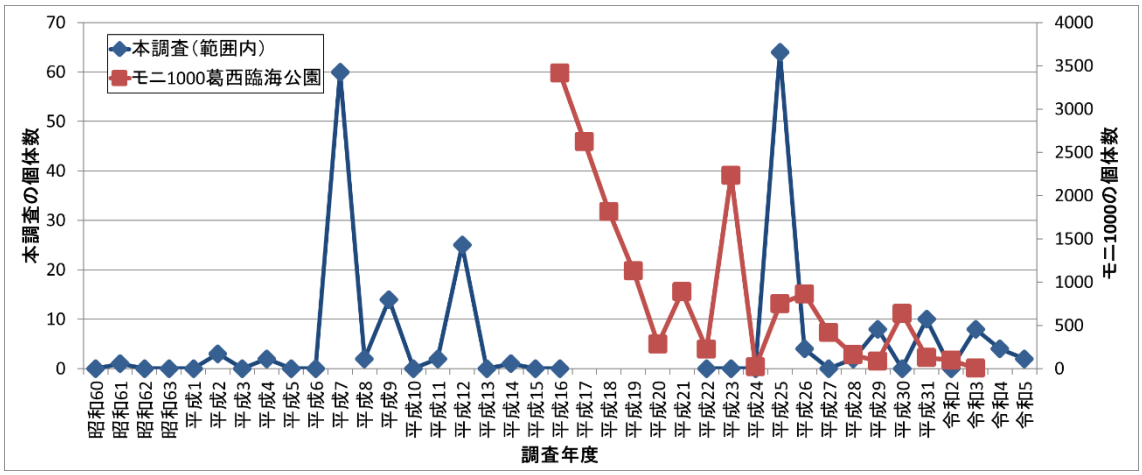
スズガモ以外の潜水採餌ガモと水面採餌ガモの個体数はモニ1000の調査結果と差があるが、これは主に調査範囲の違いによるものと考えられる。

[18] 無記名，2011．モニタリングサイト 1000 ガンカモ類調査 サイト総覧．
[19] 環境省自然環境局生物多様性センター・世界自然保護基金ジャパン，2008．モニタリングサイト 1000 シギ・チドリ類調査 調査マニュアル．環境省自然環境局生物多様性センター．



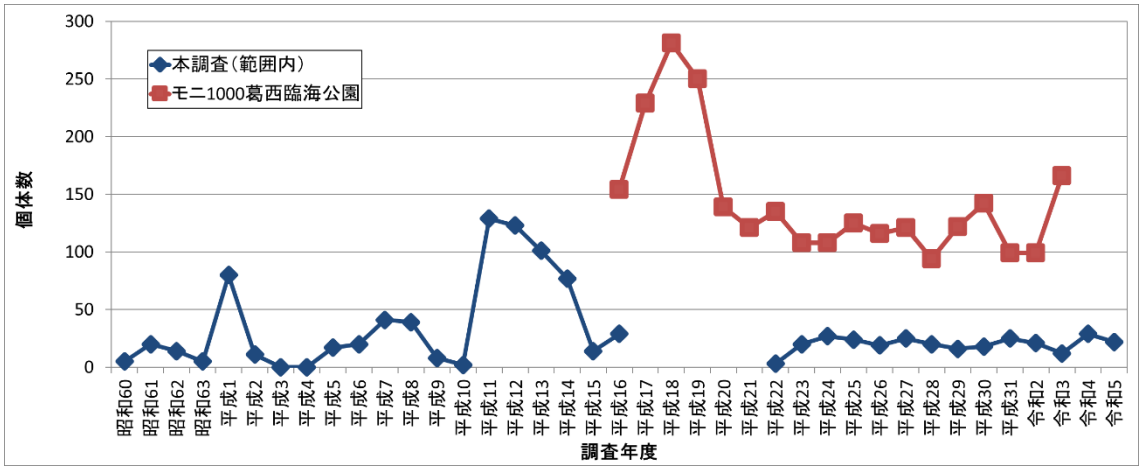
比較のため沖合を加えたデータも示す。

図 7.2-21　スズガモの最大個体数の経年変化



各グラフには次の種が含まれる。
本調査：ホシハジロ、キンクロハジロ、クロガモ、ホオジロガモ、ウミアイサ
モニ 1000：ホシハジロ、キンクロハジロ、ビロードキンクロ、クロガモ、ホオジロガモ、ミコアイサ、ウミアイサ

図7.2-22　潜水採餌ガモ（スズガモ以外）の最大個体数の経年変化

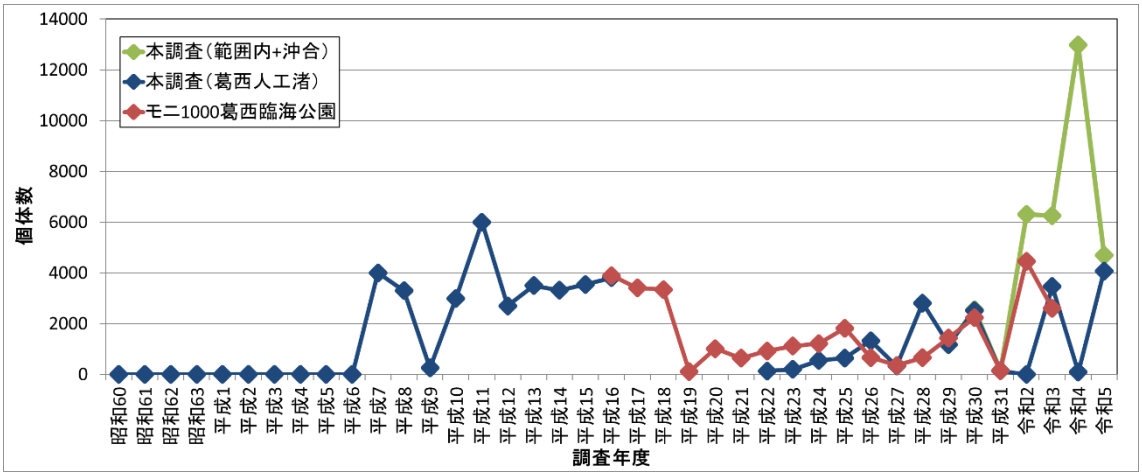


各グラフには次の種が含まれる。
本調査：オカヨシガモ、ヒドリガモ、マガモ、カルガモ、ハシビロガモ、オナガガモ、トモエガモ、コガモ
モニ 1000：オカヨシガモ、ヒドリガモ、マガモ、カルガモ、ハシビロガモ、オナガガモ、コガモ

図 7.2-23　水面採餌ガモの最大個体数の経年変化

・カンムリカイツブリ

本調査とモニ1000ガンカモ類調査から得られた、カンムリカイツブリの最大個体数の経年変化を図7.2-24に示した。カンムリカイツブリは平成2年度の初確認以降、不定期に渡来していたが、平成7年度より急激に増加し、平成11年度には最大6,000羽が確認された。平成22年度は個体数が減ったものの、以後は増減を繰り返しながらも徐々に増加している。カンムリカイツブリは調査範囲から外れて沖合に分布していることも多いため、沖合を含めた最大個体数を見ると、令和2年度は6,312羽、令和3年度は6,247羽、令和4年度は12,973羽、令和5年度は4,695羽であり、近年急激に増加したことが示された。モニ1000の結果と比較すると、特に沖合を含めた最大個体数の変化によく一致している。



比較のため沖合を加えたデータも示す。

図7.2-24　カンムリカイツブリの最大個体数の経年変化

・シギ・チドリ類

本調査とモニ1000シギ・チドリ類調査から得られた、シギ・チドリ類の最大個体数の経年変化を図7.2-25に、種数の経年変化を図7.2-26に示した。本調査において、シギ・チドリ類の最大個体数は昭和60年度の800羽以降、平成7年度までは200羽以下で推移していたが、平成8年度から平成16年度までは変動が激しいながらも増加傾向にあり、平成13年度には最も多い1,683羽を記録した。平成22年度以降は143～558羽の低い値で推移している。令和5年度は256羽であった。モニ1000の個体数は本調査よりも多い傾向があり、平成27年度や令和2年度のように顕著な違いが出る年度も見られる。このような差を生じる要因として、モニ1000の調査範囲は葛西臨海公園や旧江戸川河口を含むこと[20]や、調査頻度、調査にかける時間の長さ等の違いが影響していると考えられる。

種数については、平成4年度まで少なく渡来も不定期であったが、平成6年度から増加し始めた。平成11年度以降は11～20種で推移しており、変動はあるものの比較的安定しているように見える。令和5年度は17種であった。一方、モニ1000では平成22年度と23年度に最大の27種を記録して以降、減少傾向が見られる。

シギ・チドリ類の最大個体数を春の渡り期（5月、6月）と秋の渡り期（8月、9月）に区分した経年変化を図7.2-27に示した。平成5年度までは渡来が不定期で個体数も極端に少ないが、平成6年度以降は春季と秋季のどちらも増加した。春季の最大数は平成8年度の732羽でハマシギが多く確認された。秋季の最大数は平成13年度の948羽で、シロチドリが多く確認された。平成29年度からは、春季と秋季に多い年度では100羽程度で推移している。

多くのシギ・チドリ類が減少する中、個体数が安定しているのはミヤコドリである。ミヤコドリは平成11年度以降よく出現するようになり、平成22年度以降の春の渡り期の調査では記録されない年度があるものの、20～43羽で推移している。令和5年度は32羽であった。国内では東京湾奥部で500羽前後、伊勢湾西岸部で150羽前後が越冬し[21]、葛西海浜公園では平成27年に230羽の記録がある[22]。

[20] 「環境省自然環境局生物多様性センター・世界自然保護基金ジャパン，2008．環境省重要生態系監視地域モニタリング推進事業　モニタリングサイト1000シギ・チドリ類調査　調査マニュアル」

[21] 「ミヤコドリ」https://miebird.org/index.php/ja/nature/interest-birds/219-miyakodori

[22] 「東京湾のミヤコドリ・１　東京都江戸川区・葛西」http://www.yacho-tokyo.org/birdstudy/report/1703.pdf

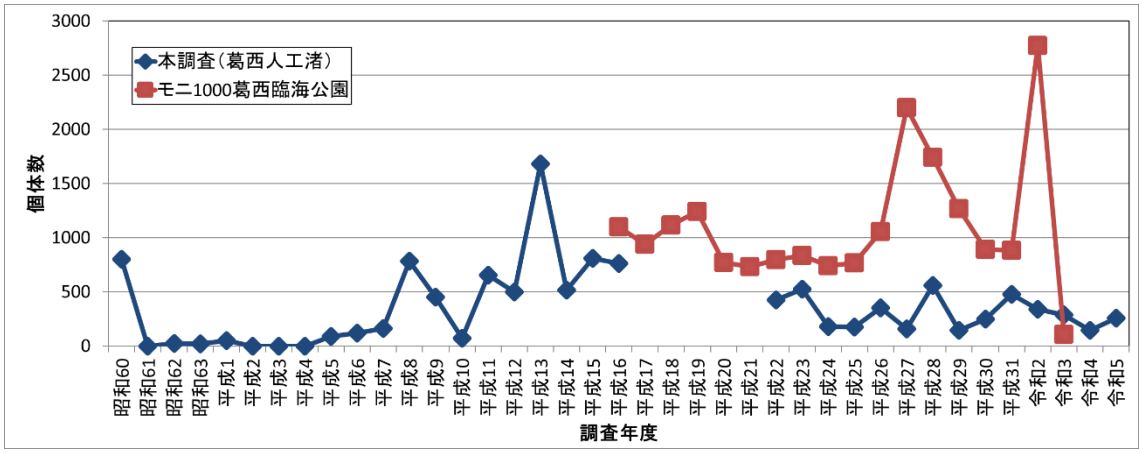


図7.2-25　シギ・チドリ類の最大個体数の経年変化

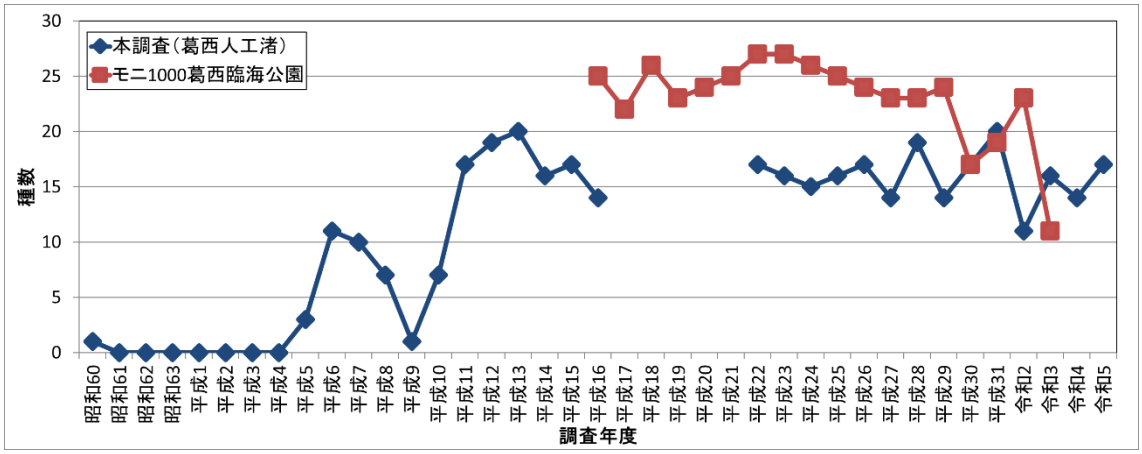
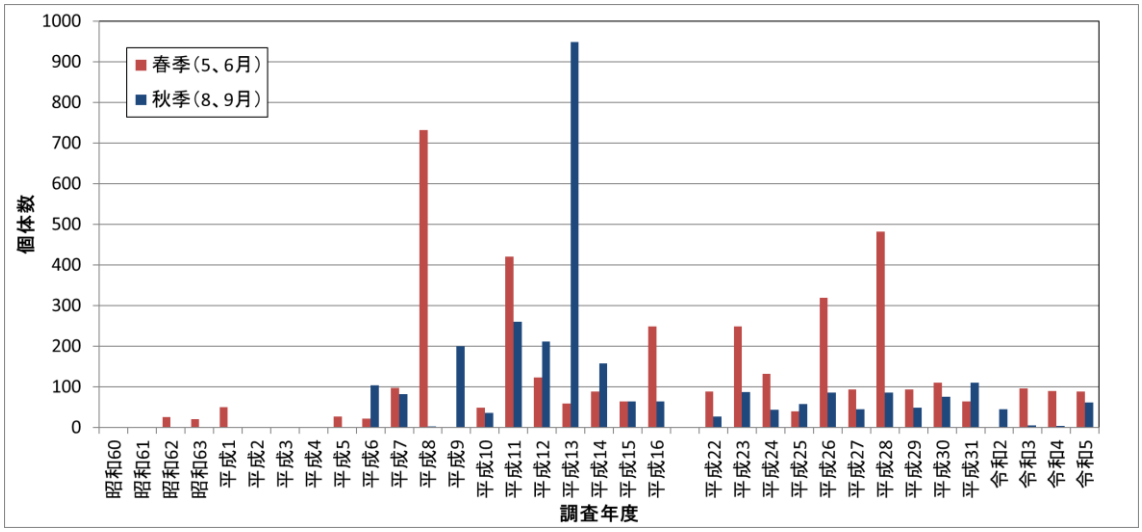


図7.2-26　シギ・チドリ類の種数の経年変化



注）令和２年度の春季、令和３年度６月と８月は欠測となっている。

図7.2-27　シギ・チドリ類の春（5月、6月）と秋（8月、9月）の渡り期の最大個体数

・カモメ類（ユリカモメ、ウミネコ）

ユリカモメとウミネコの最大個体数の経年変化を図7.2-28に示した。

ユリカモメの個体数は変動が大きく、平成6年度から平成8年度まで及び平成22年度は1,000羽を超え、最大個体数は平成6年度の1,930羽であった。近年は平成28年度の727羽と令和4年度の440羽を除き、おおむね100羽以下で推移し、令和5年度は20羽であった。

ウミネコは、昭和60年度から平成8年度までは1,000羽以下で推移し、大きな変化はなかったが、平成9年度以降は変動がありながらも増加傾向となり、平成16年度には最大の4,838羽が確認された。平成22年度以降は2,180羽以下で推移し、令和5年度は1,223羽であった。

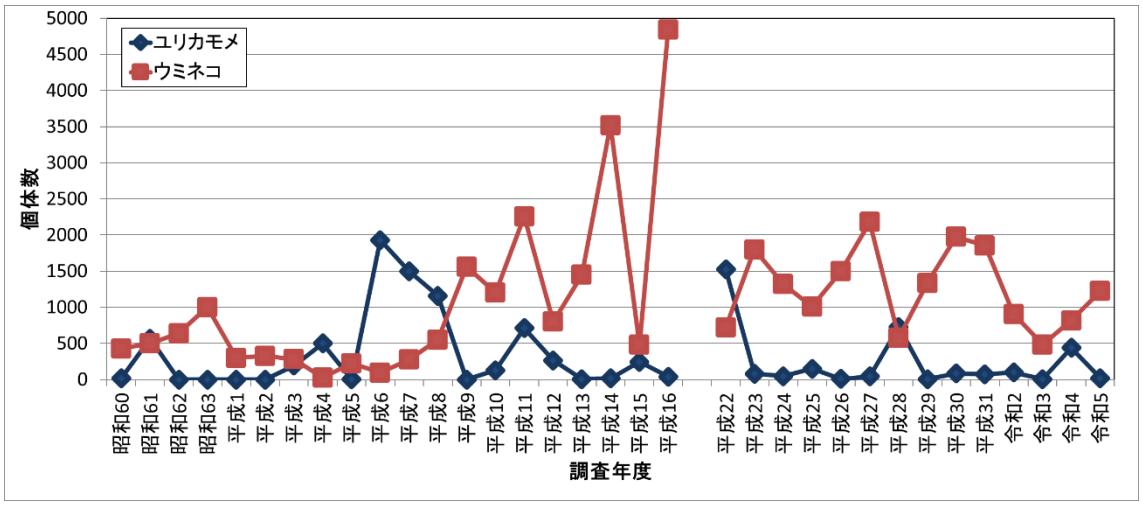


図7.2-28　カモメ類の最大個体数の経年変化

・コアジサシ

最大個体数の経年変化を図7.2-29に示した。個体数は変動が大きく、最大個体数は平成11年度の1,200羽で令和5年度は3羽のみであった。隣接する西なぎさでは不定期に営巣しており、近年では平成元年度、平成23年度、平成24年度、平成26年度、平成27年度、平成30年度、令和2年度に西なぎさで産卵が確認されているが[23]、営巣した年度と個体数の増減は必ずしも一致しない。

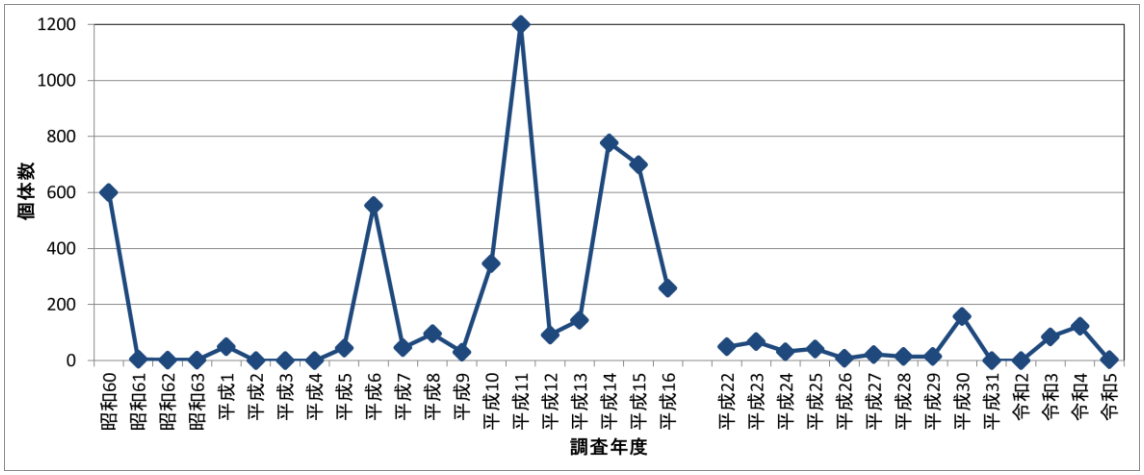


図7.2-29　コアジサシの最大個体数の経年変化

[23] 中村忠昌・大原庄史・恩田幸昌・渡部敏夫．2021．葛西海浜公園内の人工なぎさで繁殖したコアジサシとその後の保護の状況について．日本鳥学会 2011 年度大会講演要旨集:171.

エ 令和5年度調査結果の要約

令和5年度の結果と既往調査との比較から、注目すべき点を要約した。令和5年度は、メリケンキアシシギとシロカモメの2種が初記録で、範囲外であるがトウゾクカモメも確認された。

お台場海浜公園では、メリケンキアシシギ、ハマシギ、ハイタカが初めて記録された。第六台場と鳥の島でカワウが集団繁殖し、個体数は過去最多の2,600羽、営巣数は1,054巣が確認された。サギ類の繁殖は確認されず、個体数も減少したまま回復は見られない。カモ類ではスズガモが安定して渡来している一方、潜水採餌ガモと水面採餌ガモはそれぞれ10羽以下と非常に少ない。タカ類では、トビの個体数が増加しており、カワウの雛の死体等、食物を求めて集まっている可能性がある。

森ヶ崎の鼻では、ウミウとシロカモメが初めて記録された。水面採餌ガモは安定した個体数が渡来しており、特にコガモが多かった。一方で潜水採餌ガモは非常に少なく、ホシハジロ1羽のみである。シギ・チドリ類は6種で、種数・個体数共に過去と比べ減少した状態が続いている。コアジサシは、森ヶ崎水再生センターで12巣の営巣が見られたが、ふ化には至らなかった。本調査では5月に3羽、6月に2羽の飛翔が確認されたのみである。

葛西人工渚は範囲内での初記録はなく、沖合でトウゾクカモメが記録された。スズガモの個体数は年度による変動が大きく、令和5年度は範囲内で最大2,795羽、沖合を含む最大数は7,484羽であった。カンムリカイツブリの個体数は範囲内で最大4,067羽、沖合を含めると4,695羽が記録されたが、令和4年度の約13,000羽よりは減少した。クロツラヘラサギは過去最多の5羽を記録した。シギ・チドリ類は17種256羽で、特に春季に多くの種が飛来した。カモメ類は春季から夏季にかけてウミネコが多く、最大1,223羽が記録された。冬季の個体数は少ないが、ズグロカモメが2月調査で確認された。コアジサシは3羽の鳴き声が聞かれたのみで非常に少なかった。

オ 学識経験者ヒアリング

ヒアリング対象者：金井 裕（日本野鳥の会 参与）

日時：令和 6 年 3 月 18 日

〇鳥類調査

＜お台場海浜公園について＞

・カワウ個体数の増加及び営巣が早まっている要因としては、食物の魚が関わっているのだろう。冬季の魚類の活動も盛んなのではないか。また、鳥の島のサクラが成長し、営巣木になっているのではないか。元々、屋形船観光のためにサクラが植樹されたが、カワウが巣材として桜の枝を折ると、苦情が出てくる心配もある。

・かつて浜離宮で営巣していたカワウを鴨場修復時に第六台場に移動させた際、営巣はうまく誘致できたが、若鳥等非繁殖個体は分散させる結果になった。

・サギ類が減少している原因は不明だが、樹種の変化やササ類が衰退したことは関係があるかもしれない。ササ類が衰退した原因も不明だが、開花した可能性もあるかもしれない(ササ類は開花後に枯れてしまう。)。

・アオサギは地上でも営巣することがあるので、そのうち第六台場等、地上で営巣する個体が現れても不思議ではない。

・貝類等を捕食する、スズガモやキンクロハジロ等の潜水採餌ガモの減少には、底生生物の個体数が関係しているかもしれない。表層の水温上昇や海底の溶存酸素濃度、増水による塩分濃度の低下等が底生生物の個体数に影響を与えているのではないか。

＜森ヶ崎の鼻について＞

・キンクロハジロの個体数が非常に少ないが、原因は不明。潜水採餌ガモなので、お台場同様、底生生物の個体数が関係しているかもしれない。

・スズガモは通常、大群を形成するため、海面が狭く、休息できるスペースが少ない森ヶ崎では、個体数が少ないと思われる。

＜葛西人工渚(東なぎさ)について＞

・東京湾の生態系においてはカワウがかなりの割合を占めている。

・アサリを復活させるため、三枚洲で覆砂が行われる予定がある。底生生物の様子等、覆砂後の変化が気になるところである。

・クロツラヘラサギが 5 羽も確認された。成鳥が多く渡来することになったら、繁殖を始める可能性もあるかもしれない。

・モニ 1000 との結果の違いについて、本調査の範囲内で出現していない種類が水路等にいるだろう。葛西臨海公園のスタッフにヒアリングを実施すれば、範囲外の鳥類情報も得られるかもしれない。

＜その他(全体)について＞

・砂町運河のウミネコについて、高架下での営巣が続けば個体数が一気に増加するかもしれない。

バードストライクの不安もあるが、JR が現在の状況を把握しているかは不明。

・年度別確認種の表について、定常的にいた種が次第に見られなくなるような変化を読み取ることができないか。種ごとに 5 年単位等期間を区切って出現率を算出する方法もある。

・シギ・チドリ類について、干潟を好む種、岩場を好む種のように類似した環境に依存し、似たような増減傾向を示している種をまとめてグラフ化することで、変化の傾向が見えるのではないか。

・東京湾の生物多様性について、部局を越えて協議する場を作ることも必要ではないか。

・日本鳥類目録第 8 版について、掲載種リストは公開されているが、暫定的なものであり、まだ正式版ではない。令和 6 年度は引き続き、第 7 版を使用することとし、第 8 版が公開されたら速やかに変更できるように記録しておけばよいだろう。